

2019(令和元)年度 秋学期

埼玉県東部地区大学
単位互換特別聴講学生募集要項
(シラバス)

文教大学

(文教大学)シラバス目次

開設	曜日	時限	科目名	サブタイトル	クラス	教員名	教室	受け入れ人数	備考	ページ
秋	金	3	宗教学	一神教と多神教と	L	大坪 玲子	13202	5名		1
秋	火	4	哲学	西洋哲学を問いから学ぶ	L	清水 洋貴	8501	5名		2
秋	月	4	文学	近現代日本文学における「私」の行方	LA	大島 丈志	3301	5名		3
秋	火	5	文学	映像を”文学”する	LB	奴田原 諭	3305	5名		4
秋	月	1	歴史学	ヨーロッパ出版メディアの歴史	L	平 正人	8501	5名		5
秋	月	3	論理学	概念・命題・推理の諸規則を学び、明晰判明な考え方を習得する	L	鶴澤 和彦	134	5名		6
秋	木	5	音楽	現代の音楽と教育の可能性～テクノロジー	L	板倉 稔	716	5名		8
秋	金	2	美術	多様な美の表現と現代における美術の意義	L	石黒 美男	725	5名		9
秋	金	1	心理学	毎日の生活に役立つ心理学	L	大木 桃代	12101	5名		10
秋	月	4	言語学	言語のルールについて考える	L	鎌水 兼貴	643	5名		11
秋	木	4	政治学	ヨーロッパ統合の過程に学ぶ	L	三森 ちかし	725	5名		12
秋	金	2	経済学	マーケットに入ってみよう	L	福田 はぎの	235	5名		13
秋	水	3	社会学	家族・学校・性	L	立松 隆介	3301	5名		14
秋	火	2	文化人類学	異文化イメージと人類学	L	中村 博一	631	5名		15
秋	火	2	地理学	日本の歴史地理	L	三木 一彦	8501	5名		16
秋	火	5	教育学	子どもの育ちと教育	L	加藤 理	13101	5名		17
秋	金	2	国際学	ディレンマとつきあう国際政治		中村 長史	12101	5名		18
秋	木	1	化学	身近な物質と化学	L	小川 治雄	134	5名		20
秋	月	5	生態学	私たちの環境と生態系	L	豊田 健介	131	5名		21
秋	月	4	生物学	遺伝子から考える生命のしくみ	L	豊田 健介	131	5名		22
秋	月	2	生理学	ヒトと動物のからだのしくみ	L	大石 昇	643	5名		23
秋	水	2	総合講座Ⅱ	発達援助のための教育学		浅野 信彦	13201	5名	オムニバス	25
秋	月	5	総合講座Ⅵ	現代オリンピック・パラリンピック論		二宮 雅也	13101	5名	オムニバス	26
秋	金	1	総合講座Ⅶ	幸せな進路選択のために	LA	佐藤 正伸	13101	5名	オムニバス	27
秋	金	2	総合講座Ⅶ	幸せな進路選択のために	LB	佐藤 正伸	13101	5名	オムニバス	28
秋	火	3	社会学概論			大塚 明子	643	5名		29
秋	木	4	生涯学習学概論			金藤 ふゆ子	12101	5名		30
秋	金	3	臨床心理学概論			岡村 達也	725	5名		31
秋	金	4	臨床心理学概論			鍛冶 美幸	8501	5名		32
秋	金	2	演劇論Ⅰ			青木 祐子	621	5名		33
秋	木	2	児童文学Ⅱ			芦田川 祐子	716	5名		34

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00103	社会専修(E12)	Z5004295	大坪 玲子

科目名	宗教学	学年	1	単位	2
サブタイトル	一神教と多神教と	研究室			
教員名	大坪 玲子	メールアドレス(その他連絡方法)	最初の授業で指示する。		

授業概要	まず世界の主な宗教について概観し、それから諸宗教を比較し、特定の宗教のトピックを扱い、現代社会における宗教問題について考察を深める。
到達目標	宗教全体や個別の宗教に対するこれまでの偏見に気が付き、世界の主な宗教についての基礎的な理論や特徴について理解できる。
授業計画	第1回:講義概要 第2回:一神教と多神教の見取り図 第3回:ヒンドゥー教 第4回:仏教、ジャイナ教 第5回:ゾロアスター教 第6回:マニ教 第7回:ユダヤ教、キリスト教 第8回:イスラム教 第9回:日本人と宗教 第10回:聖典と教祖 第11回:食とタブー 第12回:大衆化 第13回:世俗化 第14回:近代化 第15回:まとめ
授業外での学修	授業内容について復習すること。普段から関連する情報を意識して収集し、疑問に思ったことを調べる習慣をつけること。
評価方法	試験及び提出物
評価基準	AA:世界の主な宗教の基礎的な理論や特徴を正確に理解している。A:世界の主な宗教の基礎的な理論や特徴をほぼ正確に理解している。B:世界の主な宗教の基礎的な理論や特徴を理解している。C:世界の主な宗教の基礎的な理論や特徴の理解が不十分である。D:世界の主な宗教の基礎的な理論や特徴をほとんど理解していない。
テキスト	なし
参考書	授業中に指示する。
受講者へのメッセージ	

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00202	社会専修 (E12)	Z5002771	清水 洋貴

科目名	哲学	学年	1	単位	2
サブタイトル	西洋哲学を問いから学ぶ		研究室		
教員名	清水 洋貴	メールアドレス(その他連絡方法)	z5002771@k.bunkyo.ac.jp		

授業概要	この世界には解決困難な「問い」、「謎」がある。それが「哲学」の問いである。これらの「問い」は、日常の言葉遣いやものの見方によって蔽い隠されている。この授業では、「哲学」の問いを学ぶことを通じて、日常における「当たり前」を疑い、その外に出て、「世界」や「自分」について改めて考え直すための「やり方」、「方法」が示される。
到達目標	受講者の課題は、①自分の判断の「ものさし」の外に出て、他人の問いや答えを正しく理解し受容すること、②他人の問いを自分にとっての問いとして共有すべく努力すること、あるいは、自分の問いを自分から発すること、③問いへの解決策を、ひとりよがりではなく、自分とは異質な他人にも伝わるように論理的に語ること、である。本授業では、この三点について受講者の能力を伸ばすことが目指されている。 講義のなかで定義された「概念」を用いて自らの「思考」を展開できるようになることが目標である。
授業計画	第1回:全体ガイダンス。評価基準、参考文献等の説明。philosophia(「哲学」、「愛知」とは何か～哲学の「智」と科学の「知」、「哲学」と「思想」との違い、「思う」と「考える」について～ 第2回:philosophiaとは何か～哲学の問いとはどのようなものか、隣接分野との違い、歴史的展開について～ 第3回:「人生の意味」とは何か(1)～「意味」の用法の検討～ 第4回:「人生の意味」とは何か(2)～「快楽主義」についての検討、「幸福」の構成要素の検討～ 第5回:「真理」とは何か(1)～「存在論的な真理」と、真理の整合説、真理の対応説の紹介と検討～ 第6回:「真理」とは何か(2)～プラグマティズムの真理「概念」、W・ジェイムズ『プラグマティズム』の検討～ 第7回:「人間」とは何か～「哲学的人間学」が提示する人間観の紹介と検討～ 第8回:自由とは何か(1)～「行為の自由」論(ホッブズ)。意志の「決定論」の検討(スピノザ)～ 第9回:自由とは何か(2)～「自発性」としての「意志の自由」論(バルクソン)の検討～ 第10回:自由とは何か(3)～「自由意志」としての「意志の自由」論(サルトル)の検討、「精神の自由」論(スピノザとヘーゲル)～ 第11回:心とは何か(1)～アリストテレスにおける「魂」について～ 第12回:心とは何か(2)～デカルトにおける「精神」について～ 第13回:知識とは何か(1)～「知識」の定義～ 第14回:知識とは何か(2)～「ア・プリオリな知識」とその根拠について(プラトニズム、心理主義、規約主義)～ 第15回:知識とは何か(3)～「ア・ポステリオリな知識」とその根拠について(实在論と観念論)～
授業外での学修	準備学習(予習)としては、こちらが配布する講義資料や呈示する参考文献(事典や基本図書)をよく読んでおくこと。わからない語句については自分で徹底的に調べておくこと。復習としては、配布資料とノートをよく見直すとともに、分からなかった語句や専門用語、人物、歴史背景等を、哲学・思想に関する専門の辞典・事典や参考文献を用いてできるかぎり調べる。また、原典を読むこと。
評価方法	毎回のリアクションペーパー(講義への質問、意見、問いかけへの応答、考察、15回×0～2点)と、中間レポート(35点)および期末レポート(35点)によって評価する。レポートの課題については講義のなかで説明する。
評価基準	リアクションペーパー(30点)、中間・期末レポート(70点)とする。 AA)リアクションペーパーおよびレポートの内容が特に優れている。リアクションペーパーのなかで、授業を聴いて自分が「思った」ことについて、自らで「問い」を立て、「理由」を挙げつつ自らの「考え」を押し進めている。レポートの内容に論理的な一貫性があり、全体を見通した自らの視点から十分に構成、整理されている。 A)講義内容が正確に理解されている。リアクションペーパーに授業内容について「思った」ことが記入されている。レポートの内容は正確であるが、全体を見通した自らの視点からの構成、整理に改善の余地が見られる。 B)講義内容の理解にやや難点がある。リアクションペーパーの記入内容が授業内容の確認や質問、感想や印象のみに留まっている。レポートの記述内容のうち、本人が十分に理解されていないように思われる記述が見いだされる。書き方がやや箇条書き的、羅列的である。誤字・脱字が散見される。 C)講義内容の理解が不正確である。授業内容の不正確な理解に基づいた感想や印象のみがリアクションペーパーに記入されている。レポートの記述内容のうち、不正確な理解や誤解が見られる。書き方が箇条書き的、羅列的である。誤字・脱字が散見される。 D)講義内容がまったく理解されていない。リアクションペーパーへの記入が(ほとんど)見られない。レポートの記述内容のうち、不正確な点があり、課題に対して書かれるべき内容が書かれていない。
テキスト	使用しません。資料を配付します。
参考書	アンドレ・コント＝スポンヴィル(木田・小須田・C・カンタン訳)『哲学はこんなふうだ』、紀伊國屋書店、二〇〇二年
受講者へのメッセージ	はじめの数回はすこし難しいと感じるかもしれませんが、ですが、聴講するうちに、「哲学」の世界や事物への立ち向かい方が分かってくると思います。「常識」の手前にさかのぼり、手前から出発する「哲学」の問いの根源性と、その問いへの解決の困難さを楽しんでほしいと思います。授業中の発言や質問だけでなく、違和感の表明も歓迎します。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00401	国語専修 (E11)	Z0000683	大島 丈志

科目名	文学	学年	1	単位	2
サブタイトル	近現代日本文学における「私」のゆくえ	研究室	8304		
教員名	大島 丈志	メールアドレス(その他連絡方法)	oshima@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	<p>文学の授業では、近現代日本の代表的な文学作品について文学史・作品の読みの両方からアプローチしていく。近現代日本文学においては、写実主義・自然主義・プロレタリア文学など、様々な主義主張が存在した。まず、この様々な主義主張を理解し、一つの作品を読むだけでは知り得ることの出来ない近代日本文学史と、その中で「私」、というものがどのように描かれたのか、その描かれ方を学んでいく。</p> <p>次に、グループ討論・ディベートなども行いながら、作品に描かれる「私」について考えてもらう。作品の読みに関しては多様性を重視し、高校までの教科書教材としての読みとの比較なども行いたい。最後に、現代の文学の一つの形である「ライトノベル」における「私」の描かれ方を考えたい。</p>
到達目標	<p>到達目標は以下の五つ</p> <p>①明治から昭和までの基本的な文学史の流れを理解することが出来る。</p> <p>②他人の意見も入れながら、文学作品を読むことが出来る。</p> <p>③文学作品の特徴的な表現・語彙を理解することが出来る。</p> <p>④文学作品に描かれる個人の問題を考えることが出来る。</p> <p>⑤現代文学に関する基礎的な知識を習得出来る。</p>
授業計画	<p>第1回: 授業のガイダンスー授業内容・評価についての説明。授業についてのアンケート。 講義 ライトノベルについて</p> <p>第2回: 日本近代文学の胎動。江戸から明治へ。</p> <p>第3回: 明治期の文学に関して。戯作と政治文学について。</p> <p>第4回: 二葉亭四迷「浮雲」について。自信がなく「告白」できない「私」</p> <p>第5回: 自然主義と反自然主義。明治から大正へ。</p> <p>第6回: 田山花袋「蒲団」「少女病」について。性欲を「告白」する「私」</p> <p>第7回: 大正期の文学ー芥川、漱石、白樺派等</p> <p>第8回: 武者小路実篤「お目出たき人」について。絶対的な「私」</p> <p>第9回: 文学の近代から現代へ。昭和期の文学へ。</p> <p>第10回: 横光利一「蠅」について。相対的な「私」</p> <p>第11回: 昭和期の文学ープロレタリア文学・モダニズム文学を中心に。</p> <p>第12回: 葉山善樹「セメント樽の中の手紙」について。社会の中の「私」</p> <p>第13回: 戦後文学の動向。</p> <p>第14回: 太宰治「桜桃」。弱者として苦悩する「私」</p> <p>第15回: ライトノベルにおける近代文学の受容と、「私」の描かれ方。 「文学少女」をめぐる物語を使用しながら考察する。</p>
授業外での学修	事前の作品の読み。授業の振り返り。
評価方法	授業は、講義・発表の混合形式をとる。評価は、到達目標の能力を実践する学期末テスト(60%)、授業中の小課題(40%)等を総合的に判断する。
評価基準	<p>AA 到達目標を満たしており、提出物・テスト等で十分な学習成果を示している。</p> <p>A 到達目標を満たしており、提出物・テスト等で基準を超える学習成果を示している。</p> <p>B 到達目標の達成に不十分な部分があり、提出物・テスト等にも基準に満たない部分がある。</p> <p>C 到達目標の達成が不十分であり、提出物・テスト等も基準と比較して不十分な点がある。</p> <p>D 到達目標の達成が不十分であり、提出物・テスト等も基準と比較して不十分である。</p>
テキスト	授業中に資料を配布する。
参考書	授業中に指示する。
受講者へのメッセージ	初めは高校の国語の授業との違いに戸惑うかもしれないが、興味を持って授業に取り組んで欲しい。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00403	日本語日本文学科 (L1)	Z5001896	奴田原 諭

科目名	文学	学年	1	単位	2
サブタイトル	「映像」を「文学する」	研究室			
教員名	奴田原 諭	メールアドレス(その他連絡方法)	z5001896@k.bunkyo.ac.jp		

授業概要	「感想ではなく、客観的なことを述べなさい」一、大学の教室にて、あるいは研究という場所によく聞かれることばです。しかし、これは大きな誤解にさらされていることばのようにも思えます。言われた側も、言った方も、深い考えなきまま、独り歩きを始めてしまっていることばではないでしょうか。感想を持つことは悪いところか、むしろ積極的に求められるものともいえるのではないかと、小説を対象とするとなかなか明確化しにくいこのことも、映画という身近なものであれば可能であるように思えます。担当者がピックアップした映画(作品)に対する分析を通して、自分が作品に見出した思いを考えてみてもらいます。
到達目標	作品に対して(思い)を抱き、それを自らによって対象化した上で、論として文章化できるようになる。
授業計画	第1回:ガイダンス 第2回:「文学する」ということ 第3回:「ベン・ハー」 第4回:「サウンド・オブ・ミュージック」 第5回:「切腹」 第6回:「ゴジラ」(1954) 第7回:「エクソシスト」 第8回:「STAR WARS」(EpisodeⅣ～Ⅵ) 第9回:「STAR WARS」(EpisodeⅠ～Ⅲ) 第10回:「銀河鉄道999」 第11回:「シザーハンズ」 第12回:「プロジェクトA」 第13回:「少林サッカー」 第14回:「幕末太陽傳」 第15回:「文学する」こと、そして「論ずる」こと
授業外での学修	映画・ドラマ・漫画・漫才・コント・小説・舞台……、一つでも多くの作品を「体験」し、自分の中で見解を形作る。授業にて示された担当者の見解を持ち帰り、他の作品に応用、それによって改めて自分の見解を深める。
評価方法	授業への参加態度(20%、毎回必ず、短い文章を書いてもらいます)と、小論文(80%)によって評価します。提出された学期末小論文はPDFの形で、出席者全員に対して公開いたします。
評価基準	AA) 公表するに耐え得る内容の小論文を提出した。 A) オリジナリティを加味した小論文を提出した。 B) 授業内容を踏まえた小論文を提出した。 C) 担当者の指示通りの小論文を提出した。 D) 提出された小論文が担当者の指示を守っていないかった。
テキスト	担当者作成のプリントを授業時に配布します。
参考書	特に指定なし
受講者へのメッセージ	“文学すること”は実生活に於いて何かの役に立つものではありません。本を読むことでよりよく生きるなどといった幻想は棄てましょう。では何故、文学するのか一、面白いからです。文学すること、小説を読んで深く深く考えることは、たまたま面白いことなのです。文学史を考えて見ることもまた同様、自分の思い出を語ることで楽しむ様に、日本の文学史を語ることで多いに楽しんでみてください。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00502	社会専修 (E12)	Z0000792	平 正人

科目名	歴史学	学年	1	単位	2
サブタイトル	ヨーロッパ出版メディアの歴史	研究室	8504		
教員名	平 正人	メールアドレス(その他連絡方法)	taira@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	いま「出版革命」が起きている。電子書籍の登場である。現代社会の直面する問題に対する答えを導き出すためには、出版メディアと人間との歴史的な関わり合いをいま一度考え直す必要がある。この授業では、出版メディアの歴史を批判的に検証しながら、「出版革命」の意味を検討する。
到達目標	中世から近現代にいたるヨーロッパ史の基本的な知識を獲得し、そこに出版メディアの歴史を重ね合わせることによって、過去の社会と現代社会との関係性を正確に理解することを最大の目的とする。
授業計画	<p>第1回:「出版革命」とは 電子書籍の登場</p> <p>第2回:書物の歴史(1) 写本の世界</p> <p>第3回:書物の歴史(2) 『42行聖書』の登場</p> <p>第4回:書物の歴史(3) ロンドンのグーテンベルク</p> <p>第5回:書物の歴史(4) アントワープのグーテンベルク</p> <p>第6回:パンフレットの歴史(1) パンフレットと宗教論争</p> <p>第7回:パンフレットの歴史(2) パンフレットと啓蒙思想</p> <p>第8回:新聞の歴史(1) Gazetteの誕生</p> <p>第9回:新聞の歴史(2) 論争の武器となる新聞</p> <p>第10回:新聞の歴史(3) 「儲かる」新聞</p> <p>第11回:読者の歴史(1) 出版統計から浮かび上がる読者層</p> <p>第12回:読者の歴史(2) 風俗誌から浮かび上がる読者層</p> <p>第13回:読者の歴史(3) 図像資料から浮かび上がる読者層</p> <p>第14回:読者の歴史(4) 文学作品から浮かび上がる読者層</p> <p>第15回:読者の歴史(5) 手紙・日記から浮かび上がる読者層</p>
授業外での学修	この授業では高校で学んだ世界史の知識が求められるので、高校で使用した教科書を利用して予習・復習をおこなうこと。
評価方法	受講態度(30%)、課題および期末試験(70%)による総合評価
評価基準	<p>評価基準は次のように定める。</p> <p>AA:授業で取り扱う世界史の基本的知識を習得するとともに、当該期の社会政治状況のなかで出版メディアの歴史を具体的に理解する能力を身につけることによって、過去と現代の関係性を正確に理解し、現代社会の諸問題に対する自らの見解を客観的に提示できることが基準となる。</p> <p>A:授業で取り扱う世界史の基本的知識を習得し、当該期の社会政治状況のなかで出版メディアの歴史を具体的に理解する能力を身につけることで、現代社会の問題を正確に理解することが基準となる。</p> <p>B:授業で取り扱う世界史の基本的知識を正確に習得し、当該期の社会政治状況のなかで出版メディアの歴史を具体的に理解する能力を身につけることが認められる。</p> <p>C:授業で取り扱う世界史の基本的知識を習得することが認められる。</p> <p>D:受講態度に問題があり、また出席回数の不足ならびに課題・試験の成績不良によって、世界史の基本的知識が明らかに不足していることが認められる。</p>
テキスト	授業時に指示する。
参考書	授業時に紹介する。
受講者へのメッセージ	初回の授業は必ず出席すること。 授業内容を整理するための講義ノートを作成すること。その際、授業で配付する資料を上手に利用すること。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00602	社会専修 (E12)	Z5003614	鶴澤 和彦

科目名	論理学	学年	1	単位	2
サブタイトル	論理的な考え方を習得する	研究室			
教員名	鶴澤 和彦	メールアドレス(その他連絡方法)	kazuhiko.uzawa.88@hosei.ac.jp		

授業概要	論理学は、筋道を立てて物事を考え、行動するための基礎になります。本授業では、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学びます。日常言語を使用する論理学を習得することで、思考の規則を学校や職場の文書作成、討議、プレゼンテーションなどに活用できるようになります。毎回、授業プリントと課題プリントを配布します。授業で使用した配布資料は、授業支援システム Bibb's にも掲載しておきます。授業は、授業支援システム Bibb's とプロジェクターを使って、講義形式で行われます。教科書やプリントの練習問題を解いて、知識の定着に努めるほか、受講生からの質問に丁寧に答えていきます。
------	---

到達目標	本授業は知識、態度、技能の三つの目標を掲げます。 【知識】 正しい推論のための基礎的な知識を習得することができる。 【態度】 論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。 【技能】 論旨が明快な文章を執筆することができる。
------	--

授業計画	<p>第 1 回:【授業全体のガイダンスと思考の基礎】 教員紹介、授業のテーマ、到達目標、成績評価基準、思考の三原則(同一律、矛盾律、排中律)</p> <p>第 2 回:【知識の成り立ち】 概念、内含と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類</p> <p>第 3 回:【判断・命題、オイラーの図、命題の標準形式化】 判断・命題の定義と種類、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化</p> <p>第 4 回:【推理の定義と分類、対当推理】 推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理(矛盾、反対、大小、小反対)</p> <p>第 5 回:【変形推理】 換質法、換位法、換位不可能な命題、換質換位法、戻換法、直接推理の有用性</p> <p>第 6 回:【課題プリントの回答と解説および三段論法】 課題プリント(第1回から第5回)の解答と解説、三段論法の概念と種類、定言三段論法</p> <p>第 7 回:【定言三段論法の規則】 三段論法の導入、三つの一般原則、六つの原則と三つの派生規則</p> <p>第 8 回:【定言三段論法の練習】 定言三段論法の練習問題、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題</p> <p>第 9 回:【定言三段論法の格と式】 定言三段論法の格(第1格、第2格、第3格、第4格)、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理、差異の原理、用例の原理、逆の原理</p> <p>第 10 回:【練習問題、仮言三段論法】 練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法</p> <p>第 11 回:【仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法】 前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類(肯定否定式、否定肯定式)、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反</p> <p>第 12 回:【両刀論法】 両刀論法(ディレンマ)の概念と分類(単純構成的両刀論法・単純破壊的両刀論法・複合構成的両刀論法・複合破壊的両刀論法)、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論</p> <p>第 13 回:【両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題】 両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題</p> <p>第 14 回:【直接推理と間接推理の復習】 これまで学習した直接推理と間接推理を復習する。</p> <p>第 15 回:【全体の復習と試験準備】 模擬試験を実施し、自分の弱点を見つける。</p>
------	--

授業外での学修	受講生は、授業開始までに毎回の授業ごとに、テキストの該当部分をあらかじめ読んでくること。また、授業終了後には、返却された課題プリントや練習問題を見直し、理解の定着を図ること。
---------	---

評価方法	毎回の出席を基本とし、授業中に配布される課題プリント(50%)と学期末の筆記試験の成績(50%)を総合して、評価します。筆記試験の内容は、授業中に行った練習問題から出題します。定期試験の際には、教科書、ノート、プリントの持ち込みを認めます。
------	--

評価基準	<p>課題プリントと定期試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、AA(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)とし、合格はAA、A、B、Cとします。</p> <p>AA:優れた学修態度および特に課題プリントの卓越した正解率により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。</p> <p>A:良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正解率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。</p> <p>B:学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。</p> <p>C:消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正解率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。</p> <p>D:問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。</p>
------	--

テキスト	『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円 (ISBN ISBN-10: 4872620321) 本書は、大学で「論理学」を初めて学ぶ学生のために書かれた教科書です。伝統的論理学から現代の述語論理学まで分かりやすく解説しています。
------	--

参考書	『論理哲学入門』トゥーゲントハット、ヴォルフ共著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫
-----	---

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00602	社会専修 (E12)	Z5003614	鶴澤 和彦

受講者への メッセージ	<p>質問や疑問は、授業中や授業後に伝えてください。あるいは、課題プリントの質問欄にそれを記入してください。なお、病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、授業支援システム Bibb's に保存してある授業プリントと課題プリントをダウンロードし、自習後に課題プリントを教員に提出してください。なお、本授業は、文系・理系を問わず、分かりやすい文章を書いたり、よく理解できるスピーチをしたりするのに役立ちます。さらに、理解力、判断力、表現力をつけるためには、共通教養科目の「文章論」、「哲学」などの関連領域を学習することを推奨し</p>
----------------	--

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00702	音楽専修 (E15)	Z5000083	板倉 稔

科目名	音楽	学年	1	単位	2
サブタイトル	現代の音楽と教育の可能性～テクノロジー		研究室		
教員名	板倉 稔	メールアドレス(その他連絡方法)	itaclamino@jcom.home.ne.jp		

授業概要	今まであまり気がつかなかったテクノロジーを再確認し、理解し協和する発想を皮切りに、ダイナミックな技術革新を捕らえながら新たな見地で教育との接点や方向性を模索する。
到達目標	1. 各回の授業内容に設定されている課題についてじっくりと考察する。 2. 自分の意見、考えを発言する。
授業計画	第1回:第1回 社会に認められる音楽～音楽である必然について 第2回:第2回 人とはどのようなものか～音楽の世界と才能教育 第3回:第3回 聴く音楽～音楽の変遷～音楽の起源 第4回:第4回 演奏する音楽～いろいろな演奏形態の音楽 第5回:第5回 楽器と向き合う～楽器の秘密と人の能力について 第6回:第6回 音楽の成り立ち～作品にこめる作曲家の思い 第7回:第7回 音楽にしかできない事～音楽教育の違い 第8回:第8回 即興演奏～JAZZに見られる演奏形態 第9回:第9回 音楽とテクノロジー～コンピューターとの融合 第10回:第10回 音楽に内包されているもの～ハーモニーと音階 第11回:第11回 学びの姿～知る事と考え続ける事 第12回:第12回 教育の未来～学びの先の音楽とは 第13回:第13回 音楽が教育に貢献できるものとは～音楽と教育の実際 第14回:第14回 教育とテクノロジーの未来 第15回:第15回 音楽～教育～テクノロジーの繋がりを考える～育ちと表現を支える技術
授業外での学修	絶えず疑問を持ち探求する。
評価方法	授業で取り上げるテーマを考察し、音声化(音響化)・言語化・明文化により、独創性、具体性、論理性を基軸に考えを展開し積極的な発言及び提出物を総合して評価する。 出席日数不十分、試験未受験及び提出物未提出の可能性のある者は自分で確認すること。こちらから確認することは致しませんので、十分注意して下さい。
評価基準	提示されたテーマに対して評価方法に基づき、独創性、具体性、論理性の基軸が展開されていて明確なものを S)、独創性、具体性、論理性の基軸は展開されているが曖昧が見られるものを A)、考察はされているが基軸展開が不十分なものを B)、考察が不十分であり基軸展開も曖昧なものを C)、設問に合致せず上記の評価方法に該当しないものを D)、試験の欠席、或いは未提出物の有る者を E)、出席不足等で試験を受験する資格のないものを F)とする。
テキスト	使用しない
参考書	使用しない
受講者へのメッセージ	社会ですぐに役立つ事柄もあるので真剣に取り組んでいただきたい。対話形式(ディベート等)の授業も展開するので、積極性を期待したい。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00802	美術専修 (E16)	Z0000971	石黒 美男

科目名	美術	学年	1	単位	2
サブタイトル	多様な美の表現と現代における美術の意義		研究室	12111	
教員名	石黒 美男	メールアドレス(その他連絡方法)	ishiguro@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	海外及び日本の美術史を学修するとともに、美術が人々の暮らしとどのように関わってきたのかということについて考えます。なお、この授業では講義に加え、映像教材の鑑賞、展覧会情報、美術館紹介等を行う予定です。学期末には試験を実施します。
到達目標	海外及び日本の美術史に関する知識を獲得するとともに、現代における美術の意義について理解することができる。
授業計画	第1回: ガイダンス ～本授業の概要説明～ 美術の黎明 ～先史美術～ 第2回: ルネサンス ～レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ～ 第3回: バロック ～ルーベンス、レンブラント、フェルメール～ 第4回: バルビゾン派 ～ミレー～ 第5回: 印象派 ～マネ、モネ、ルノワール～ 第6回: 後期印象派 ～セザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、スーラ～ 第7回: キュビズム ～ピカソ～ シュールレアリスム ～ダリ～ 第8回: 近代デザインの変遷 ～アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、バウハウス～ 第9回: 天平の美 ～正倉院宝物～ 第10回: 琳派の系譜 ～本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳、尾形乾山、酒井抱一～ 第11回: 浮世絵の流行 ～喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重～ 第12回: 奇想の画家 ～伊藤若冲～ 第13回: 明治の超絶技巧 ～宮川香山、海野勝珉、並河靖之～ 第14回: 工芸の用と美 ～民芸運動～ 第15回: まとめ ～現代における美術の概念と意義～
授業外での学修	上記の「授業計画」に従って、あらかじめ美術書等により代表的な作家や作品について確認しておきましょう。また、授業終了後には、配付資料や参考書等により学修内容の理解を深めてください。
評価方法	試験(70%)、学修態度及び提出物(30%)による。
評価基準	AA:学修態度が模範的で、学修内容を的確に理解することができ、試験成績が特に優れている。 A:学修態度が良好で、学修内容を理解することができ、試験成績が優れている。 B:試験成績がやや劣るものの、学修態度が良好で、学修内容の基礎的な理解が認められる。 C:学修態度が消極的で、理解力が不足し、試験成績が劣る。 D:学修意欲がなく、試験成績が基準に満たない。
テキスト	資料を配付する。
参考書	授業中に提示する。
受講者へのメッセージ	単に美術史を暗記するのではなく、社会と美術の関係や現代において美術がいかなる意味を持つのかということについて考えていきましょう。授業では、美術に関するさまざまな情報も紹介します。積極的に美術館や画廊等を訪れ、本物に接してください。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B00904	心理学科 (H3)	Z0000562	大木 桃代

科目名	心理学	学年	1	単位	2
サブタイトル	毎日の生活に役立つ心理学	研究室	12428		
教員名	大木 桃代	メールアドレス(その他連絡方法)	授業初回に指示する。		

授業概要	<p>心理学は科学の一領域であり、科学的・論理的な思考が必要とされる学問です。それと同時に、毎日の生活の中には心理学があふれており、日常生活への応用がきわめて有効な学問でもあります。この授業では、心理学の理論や概念を講義すると同時に、日常生活の中の心理学の活用についても紹介します。</p> <p>授業は大きく3つの内容から構成されます。</p> <p>第一に、心理学の歴史・研究法と、実験的手法を用いて心のしくみを理解する基本的な4つの領域を講義します。ここでは、多くの人に共通して生じる心理学の現象を扱います。</p> <p>第二に、心の発達や社会における心の動きなどを扱う6つの領域を説明します。多くの人に共通する部分であると同時に、個人差も大きい領域です。</p> <p>第三に、医療・福祉・ビジネスの現場における心理学の活用について、現場の目線から紹介します。</p> <p>このように理論から応用まで幅広い心理学を学び、単に机上の学問ではなく、実際に心理学が毎日の生活の中でどのように活用されているのかということを実感してもらいたいと思います。そして皆さん自身が毎日の生活に心理学を役立ててくれることを目的としています。</p>
------	--

到達目標	(1)代表的な心理学の理論と概念を理解できる。(2)心理学の日常生活への応用を考察できる。
------	---

授業計画	<p>第1回:オリエンテーション 心のしくみを理解する心理学(1) 心理学の歴史と研究法(テキスト第1章) 意識か行動か・哲学か科学か</p> <p>第2回:心のしくみを理解する心理学(2) 学習心理学(テキスト第2章) 行動が変わる・行動を変える・行動を生み出す</p> <p>第3回:心のしくみを理解する心理学(3) 知覚心理学(テキスト第3章) 見る・聞く・感じる</p> <p>第4回:心のしくみを理解する心理学(4) 認知心理学(テキスト第4章) 選ぶ・覚える・考える</p> <p>第5回:心のしくみを理解する心理学(5) 生理心理学(テキスト第5章) 司る・整える・守る</p> <p>第6回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(1) 発達心理学(テキスト第6章) 変化する・進化する・深化する</p> <p>第7回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(2) 人格心理学(テキスト第7章) その人らしさ・本当の私・頭の良さ</p> <p>第8回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(3) 社会心理学(テキスト第8章) 見つめる・つながる・影響する</p> <p>第9回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(4) 感情心理学(テキスト第9章) 体験する・作用する・付き合う</p> <p>第10回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(5) 健康心理学(テキスト第10章) 予防する・維持する・増進する</p> <p>第11回:心の成り立ちと広がり理解する心理学(6) 臨床心理学(テキスト第11章) 正常／異常とは・心理療法は効くか・カウンセラーとは</p> <p>第12回:医療・福祉の現場で役立つ心理学(1)医療心理学(テキスト第12章) 心の病・身体の病・病と付き合う 医療・福祉の現場で役立つ心理学(2)福祉心理学(テキスト第13章) 幸福・QOL・ウェルビーイングを支援する</p> <p>第13回:医療・福祉の現場で役立つ心理学(3) 医療・福祉現場における心理的援助(テキスト第14章) 聴く・理解する・心が変化する 医療・福祉の現場で役立つ心理学(4)生命倫理と法(テキスト第15章) 知る・考える・協働する—他領域とのコラボレーション</p> <p>第14回:ビジネスの現場で役立つ心理学(1)産業・組織心理学(テキスト第16章) やる気を高める・チームを作る・いきいき働く ビジネスの現場で役立つ心理学(2)消費行動心理学(テキスト第17章) 選ぶ・決める・買う</p> <p>第15回:ビジネスの現場で役立つ心理学(3)ビジネス・コーチング心理学(テキスト第18章) 感情に気づく・思考を変える・建設的に行動する</p> <p>日常生活における心理学の活用・総括</p>
------	--

授業外での学修	上記の「授業計画」に従って、毎回の授業ごとに該当テーマに関する配布資料や参考書にあらかじめ目を通して頂くこと。授業終了後には、そこで取り上げられたテーマに関係する本を読むこと。その他、各回に別途指示する。
---------	--

評価方法	2回のレポートを各35%、毎回の課題を30%の割合で評価する。
------	---------------------------------

評価基準	<p><AA>授業に積極的に参加し、課題も的確に理解している。かつ、レポートの内容が特に優れている。</p> <p><A>授業に積極的に参加し、課題も的確に理解している。かつ、レポートの内容が優れている。</p> <p>授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足している。レポートの内容にやや難点がある。</p> <p><C>授業に参加しているが、課題の理解力が不足している。レポートの内容に大きな難点がある。</p> <p><D>授業に参加していない。課題がまったく理解されていない。レポートの内容が合格に達していない。</p>
------	---

テキスト	大木桃代・小林孝雄・田積徹(編著)(2014). 日々の生活に役立つ心理学. 川島書店. 2800円＋税. ISBN: 978-4-7610-0897-0
------	---

参考書	授業中に指示する。
-----	-----------

受講者へのメッセージ	<p>基本的には講義形式となるが、一方通行の授業にならないようにしたいと考えている。皆さんの活発な質疑応答を期待する。当然、授業中の私語や出入り、携帯電話やスマートフォンの使用などは厳禁とする。</p> <p>聴講生・科目等履修生の受講可否:可</p>
------------	--

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K01	K01B01002	日本語日本文学科(L1)	Z5002432	鎌水 兼貴

科目名	言語学	学年	1	単位	2
サブタイトル	言語のルールについて考える		研究室		
教員名	鎌水 兼貴	メールアドレス(その他連絡方法)	日文科準備室での連絡。		

授業概要	言語とは人間にとって最も基本的な道具であり、言語なしではコミュニケーションはおろか、考えることもできない。にもかかわらず、人間の言語は全世界共通ではなく、非常に多くの言語が存在する。さらに、同じ言語と思われている中でも、詳細にみると、住む地域、生まれた時代、所属する集団、育った環境等によって、少しずつ異なっている部分があることがわかる。この授業では、日本語の事例を中心に、言語に共通する一般的なルールや、言語の変異について学ぶ。
到達目標	授業を通じて、言語に共通する一般的なルールについて学ぶとともに、言語の変異についても取り扱うことで、我々が日常使用する言語について、先入観なく客観的に考えることが出来るようになる。
授業計画	第1回:1. ガイダンス 第2回:2. 言語とは 第3回:3. 音声学・母音 第4回:4. 音声学・子音 第5回:5. 音韻論 第6回:6. 日本語の特徴・音声 第7回:7. 日本語の特徴・表記 第8回:8. 日本語の特徴・地域差 第9回:9. 日本語の特徴・言語変化 第10回:10. 語の構造・形態素 第11回:11. 語の構造・語構成 第12回:12. 文の構造・直接構成素分析 第13回:13. 文の構造・句構造分析 第14回:14. 文の構造・変形文法 第15回:15. まとめ
授業外での学修	授業が進むにつれ、それ以前の授業で学んだ内容を理解したものとして講義を行うため、常に授業の復習に心がけること。
評価方法	授業への出席を基本として、次の通り評価する。 (1)授業中の小課題(20%) 授業中に不定期な小課題を行い、学修状況(理解度)のチェックをする。 (2)期末試験(80%) 期末試験では、授業内容の応用を求める。
評価基準	AA) 授業の内容をよく理解し、応用的なことについても自分の言葉で十分に説明することができる。 A) 授業の内容をよく理解し、応用的なことについてもある程度説明ができる。 B) 授業内容はある程度理解しているものの、応用力にやや欠ける。 C) 授業内容の理解・応用力ともにやや欠ける。 D) 授業内容の理解、応用力ともに不十分。
テキスト	必要な時以外のプリント配布はせず、板書を各自書き写す形で行う。
参考書	授業内で適宜紹介する。
受講者へのメッセージ	基本的なことを学習するので、継続して履修するようにしてください。日常生活におけるさまざまな言語現象に注意することが大切です。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00202	社会専修 (E12)	Z5000015	三森 ちかし

科目名	政治学	学年	1	単位	2
サブタイトル	ヨーロッパ統合の過程に学ぶ	研究室			
教員名	三森 ちかし	メールアドレス(その他連絡方法)	Chikashi685@yahoo.co.jp		

授業概要	現在、ヨーロッパではダイナミックな政治変動が起きています。2002年には共通通貨ユーロが導入され、2004年には旧東欧諸国を中心とする10もの国々が EU に加入しました。2016 年現在では加盟国は28、ユーロ参加国も19にまで増加しています。また、シェンゲン協定によって EU 域外国も含む24の国でパスポートなしの自由な移動が可能となっています。飛躍的な発展を遂げてきたヨーロッパの統合ですが、その一方でユーロ危機への対応、EU 懐疑派の台頭などにより EU は大きく揺れています。遂には英国の EU 離脱が国民投票で可決されてしまいました。この講義では、ヨーロッパの統合の過程を見ていくことで、国家および国際政治についての理解を深めることを目的とします。日本と東アジア諸国との関係を考える一助ともなるでしょう。
到達目標	現代ヨーロッパについての知識が深まります。 政治が人の営みであることを理解し、社会への見聞を広められるでしょう。
授業計画	第1回:EU 概要紹介(1) 第2回:EU 概要紹介(2) 第3回:EU 概要紹介(3) 第4回:EU 概要紹介(4) 第5回:リヒャルト・クーデンホーフ=カレルギーと「汎ヨーロッパ」 第6回:ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC) 第7回:ヨーロッパ経済共同体(EEC)の結成 第8回:ド・ゴールの挑戦 第9回:統合の停滞、そして前進 第10回:サッチャーの抵抗 第11回:EC から EU へ 第12回:EU の構造 第13回:EU の政策領域「国境なきヨーロッパ」 第14回:共通通貨ユーロ 第15回:BREXIT の影響
授業外での学修	新聞などで関連情報に接しておいてください。可能であれば、NHK-BS などでヨーロッパのニュース番組を視聴してください。
評価方法	学期末の試験で評価します。
評価基準	講義への参加を原則とし、学期末テストで評価する。AA)講義内容をよく理解し、的確に整理された回答。A) 講義内容をよく理解していることが分る回答。B) 講義内容を理解していることが分る回答。C)講義内容への理解が不十分な回答。D)講義内容を全く理解していない回答。
テキスト	使用しない
参考書	参考書名『ヨーロッパ統合の政治史』著者名(金丸輝男ほか) 出版社名(有斐閣) 参考書名『EU の政治』著者名(田中俊郎) 出版社名(岩波書店) 参考書名『EU-欧州統合の現在-』著者名(辰巳浅嗣) 出版社名(創元社)
受講者へのメッセージ	前述したように、現代史およびヨーロッパについての基礎知識があると講義が理解しやすいでしょう。また、EU と欧州統合は現在進行中の出来事ですから、新聞などで関連記事を積極的に探して読んでおいてください。参考文献は上記以外にも随時紹介します。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00302	家庭専修 (E18)	Z0000117	福田 はぎの

科目名	経済学	学年	1	単位	2
サブタイトル	マーケットの中に入ってみよう	研究室			
教員名	福田 はぎの	メールアドレス(その他連絡方法)	hagino@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	現代人が大規模に広がった商品需要・供給関係すなわち市場経済展開のひとつとして生きていることを客観的に理解できることを目指して授業内容は配列されている。まず身近な自分たちの行動がいかに関係しているかを理解したうえで、市場を3つ—労働力、商品(モノとサービス)、金融(おカネ)—に分類し、それぞれの基本的特質と論理・現状をみていく。現在、市場がグローバルな動きの一環であることを示す諸指標も捉えていく。これらを踏まえたうえで、国民経済の変化を測定する国民経済計算という考え方へとつなげる。
到達目標	「経済」を自分に深くかかわる問題だと認識し、周囲で生起している経済問題に興味をもち、すすんで理解しようとする意欲をもち、またそのために必要な基本的・基礎的知識が身についている。
授業計画	第1回: 私たちが生きる「商品世界」 第2回: 市場経済と資本主義 第3回: 国民経済を構成する主体と行為 第4回: 家計の構造 第5回: 家計と企業 第6回: 家計と政府 第7回: 労働の意義と分類 第8回: 労働市場を観る 第9回: 商品と市場機能 第10回: 価格と物価、景気変動 第11回: 企業と生産、グローバル化 第12回: 金融市場の基礎知識 第13回: 直接金融と間接金融 第14回: 国民経済を測定する 第15回: 総括—主要概念の整理—
授業外での学修	新聞等のメディアから経済問題を取り出し考える経験を重ねていく。
評価方法	学修態度(20%)、提出物(10%)、試験(70%)による。
評価基準	AA: 優れた学習態度、特によく調べられた提出物、試験成績で経済的事象についての豊富な知識を習得し、優れた理解を示している。 A: 良好な学習態度、よく調べられた提出物、試験成績が良好で、所定の知識を習得し、経済的事象をよく理解している。 B: 学習態度、提出物、試験成績のいずれかが劣っていて、知識の習得に不足がみられるが、経済的事象についての基本的理解は認められる。 C: 消極的な学習態度、最低限の知識の習得、経済的事象についての最低限の理解は認められる。 D: 問題ある学習態度や提出物に不備があり、知識が大いに不足し、経済的事象についての理解が認められない。
テキスト	資料を配付する
参考書	授業中に指示する
受講者へのメッセージ	人は消費者であり、労働者でありマネー管理者であるという現代人の経済的属性と、これらを媒介に人が国内・国際経済の一環に存在することを理解しよう。これを通じてさまざまな経済事象に、より自由により柔軟に対応できる。 ※授業計画は、学習の進捗状況等に応じて変更となることがある。 自らの能力を発達させよう。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00502	人間科学科 (H1)	25001838	立松 隆介

科目名	社会学	学年	1	単位	2
サブタイトル	家族・教育・性	研究室			
教員名	立松 隆介	メールアドレス(その他連絡方法)	ma-mtyyad-548290@agate.dti.ne.jp		

授業概要	社会学とは、一言でいえば、社会的存在としての私たち自身の行動を研究対象とする学問である。私たちの生活は、どんなに個人的なものに感じられようとも、社会のあり方や変化と深く結びついている。この授業では、まず社会学の基本的な考え方を学び、つぎに家族、学校、性という身近なテーマについて、そのことを具体的に確かめることにする。
到達目標	データにもとづき論理的に考える社会的な分析力を身につけることを目標とする
授業計画	第1回:社会学とは何か 第2回:社会学の基本的な考え方(1) 行為 第3回:社会学の基本的な考え方(2) 集団 第4回:戦後の社会変動と家族(1) 女性の主婦化 第5回:戦後の社会変動と家族(2) 少産化 第6回:戦後の社会変動と家族(3) 核家族化 第7回:戦後の社会変動と家族(4) 家族のゆくえ 第8回:近代化と学校(1) 家族の国民国家への統合 第9回:近代化と学校(2) 業績主義 第10回:近代化と学校(3) 規律 第11回:性(1) 戦後日本における男女交際の変化 第12回:性(2) 男女の身体観の変遷 第13回:性(3) ヒトはなぜ服を着るのか 第14回:性(4) 性愛倫理の歴史 第15回:まとめ
授業外での学修	<ul style="list-style-type: none"> 参考書や授業で紹介する文献のうち何冊かをじっくり読んでみる 授業内容と関連する新聞記事などにふだんから目を通すようにすること
評価方法	定期試験による。試験は授業内容を要約する形式で行う。
評価基準	<p>S)すべての要点について、正しく、十分に説明できている。</p> <p>A)わずかな誤りや説明が不十分な部分もあるが、授業内容をよく説明できている。</p> <p>B)誤りや説明が不十分な部分がかかなりあるが、大筋では授業内容を正しく説明できている。</p> <p>C)誤りや説明が不十分な部分が多いが、授業内容についての理解がある程度感じられる。</p> <p>D)誤りや説明が不十分な部分が多く、授業内容についての理解がほとんど感じられない。</p>
テキスト	使用しない
参考書	『21世紀家族へ』 落合恵美子 著 (有斐閣) 『少子社会日本』 山田昌弘 著 (岩波新書)
受講者へのメッセージ	随時、授業内容についての簡単なテストを行う。授業をよく聴き、しっかりノートをとること。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00602	人間科学科 (H1)	Z0000565	中村 博一

科目名	文化人類学		学年	1	単位	2
サブタイトル	異文化イメージと人類学		研究室	12319		
教員名	中村 博一	メールアドレス(その他連絡方法)	hslaiman@koshigaya.bunkyo.ac.jp ないし CoursePower の質問機能			

授業概要	文化人類学とは何だろうか。未開の奇妙な風習を研究する分野だろうか。国際化に貢献し異文化の理解を深めてくれそうな分野だろうか。現代を読み解くキーワードがころがっているような分野だろうか。それとも、毎日のとるに足りないような端切れの観察から何かをみようとする分野だろうか。講義では文化人類学自体についてのイメージもふくめて、異文化についてわたしたちのいづくイメージとずれについて解説してみたい。概論と異なりますので注意して下さい。
到達目標	自己視点に基づく文化イメージの根強さを認識し、距離をとって考えられること。および、そのための方法を知ること。
授業計画	第1回: ガイダンス 本講義の解説と単位取得の条件等について 第2回: 文化の考えかたや民族誌的記述について 第3回: 観察という方法(1) 考現学と文化人類学 第4回: 観察という方法(2) 見ることによって見ない 祭りの闖入者 第5回: インタビューという方法(1) 日本語がわからない? 聞くことの難しさ 第6回: インタビューという方法(2) 移民の民俗的世界「江戸行き」語りの世界 第7回: 調査害 調査のトラブルと異文化イメージ 第8回: 人間や施設や商品を分類する? いくつかの象徴分類を例に 第9回: 異文化接触 アマゾンとカリフォルニア他 第10回: トラベラーズ 象徴の境界と戦略的異文化イメージ 第11回: 異文化表象としての日本 『菊と刀』における自然の擬装と菊づくり現場の創造性 第12回: 自文化の人類学を考える 社宅の床の間とオランダ絵画における窓 第13回: 食人俗と異文化イメージ 第14回: 「最後の原始人」? 見せる文化と生存の生政治学 第15回: 異文化を浮かびあがらせるための技法
授業外での学修	当日講義で配布した資料を読み直し、次回の講義前までに確認しておくこと。
評価方法	定期試験と小テストで評価する。講義課題の取組も考慮する。4年次生(最終学年)の再試験については、定期試験の得点範囲と学びへの積極性を受験条件とする。詳細は第1回講義で解説する。
評価基準	AA)定期試験・小テスト成績と課題取組が特に優れている。A)定期試験・小テスト成績と課題取組が優れている。B))定期試験・小テスト成績と課題取組が多少評価できる。C))定期試験・小テスト成績および課題取組の結果が平凡である。D))定期試験・小テスト成績が低く、課題取組もおさなりである。理解力に問題があり、意欲も感じられない。
テキスト	使用しない
参考書	授業中に指示する
受講者へのメッセージ	概論的な知識を望む学生は人間科学部に開講されている文化人類学概論も受講してください。明確な答えを期待する方には向きません。質問については、自分の答えを用意した上でお願いします。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00701	社会専修 (E12)	Z0000604	三木 一彦

科目名	地理学	学年	1	単位	2
サブタイトル	日本の歴史地理	研究室			
教員名	三木 一彦	メールアドレス(その他連絡方法)	最初の授業で指示する。		

授業概要	地理学は、歴史軸を考慮に入れることで、ぐっと奥行きを広げることができる。本授業では、いくつかのトピックを糸口としながら、日本列島諸地域の歴史的展開について考えていきたい。
到達目標	日本列島諸地域の地理的・歴史的展開に関して理解し、身近な地域などとの対照にも関心をいただけるようになる。
授業計画	第1回: I. 歴史地理学とは ①序論 第2回: ②「日本」をめぐる 第3回: II. 古代の点・線・面 第4回: III. 荘園から村へ 第5回: IV. 城下町のなりたち 第6回: V. ビデオ『ふるさとの伝承』 第7回: VI. 旅と信仰 ①熊野・伊勢・出羽三山 第8回: ②三峰山 第9回: VII. 人獣交渉史 第10回: VIII. 伝統的産業の形成 ①銚子のイワシ 第11回: ②銚子の醤油 第12回: IX. ビデオ『映像の20世紀』 第13回: X. イモの来た道 ①ジャガイモ 第14回: ②サツマイモ 第15回: X I. 授業内試験と解説
授業外での学修	予習として高校レベルの地理および日本史に関する事前学習、復習として授業で取り上げた事例に関し、身近な地域など他地域との対照を行なうこと。
評価方法	学期末試験や学修態度によって評価する。授業開始時刻後の入室はすべて遅刻として扱うので注意すること。
評価基準	AA=学修態度が特に優れ、日本列島の地理的・歴史的展開を十分に理解している。 A=学修態度が優れ、日本列島の地理的・歴史的展開を理解している。 B=学修態度がやや消極的だが、日本列島の地理的・歴史的展開をある程度理解している。 C=学修態度が消極的だが、日本列島の地理的・歴史的展開を最低限理解している。 D=学修態度に問題があり、日本列島の地理的・歴史的展開の理解が不十分である。
テキスト	使用しない。
参考書	本授業に関する参考文献一覧URL: { http://www.koshigaya.bunkyo.ac.jp/miki31/jhistory-list }
受講者へのメッセージ	ヨーロッパに関心がある方は、春学期開設の「地理学」をおすすめします。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00802	学校教育課程 (E1)	Z0000922	加藤 理

科目名	教育学	学年	1	単位	2
サブタイトル	子どもの育ちと教育	研究室	13405		
教員名	加藤 理	メールアドレス(その他連絡方法)	o-kato@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	<p>子どもに関する呼び方の歴史から子どもという存在を歴史的にとらえていくことに始まり、歴史を俯瞰しながら子どもの育ちや教育についてのさまざまな現象や問題を取り上げて考察する。</p> <p>特に、子どもの権利、不登校、子どもの貧困、発達障害、いじめ、道徳教育、教育と子どもをめぐる今日的な問題や課題について取り上げ考えを深めていく。</p> <p>授業は講義形式を中心に進めていくが、配布したプリントからどのようなことが考えられるか、周囲の受講生たちとグループ討議をしてもらい、その結果をもとに全体で議論を進めながら思考を深めることも行う。</p>
到達目標	子どもの育ちと教育への理解が深まり、教育の本質について考える力を身に着けるようになる。
授業計画	<p>第1回: 人類の誕生と子どもの歴史</p> <p>第2回: 子どもの呼称について—平安時代の子どもの髪形と子どもの呼称</p> <p>第3回: 危うい命と人々の願い—子どもの病と死</p> <p>第4回: 命の承認—生育儀礼の発達</p> <p>第5回: 子どもの成長とジェンダー</p> <p>第6回: 消費社会と学校教育</p> <p>第7回: 体罰と暴力</p> <p>第8回: いじめと隠れたカリキュラム</p> <p>第9回: 対教師暴力</p> <p>第10回: 道徳教育の歴史—修身科と国史・唱歌</p> <p>第11回: 道徳教育の戦後史</p> <p>第12回: 特別の教科道徳の方法と課題</p> <p>第13回: 発達障害と子どもの可能性</p> <p>第14回: 「生きる力」と「確かな学力」</p> <p>第15回: まとめ、アンケート等</p>
授業外での学修	資料や参考図書を読んでくること。
評価方法	学修態度(50%)、ミニレポート(30%)、レポート(20%)
評価基準	<p>AA: 評価基準は、毎時間後に書いてもらうミニレポートが授業の課題を的確に理解し、自身の思考として深めている</p> <p>A: ミニレポートが授業の課題を的確に理解している</p> <p>B: ミニレポートの内容が授業の課題を理解しているとは言えないものの、真剣に授業に取り組んでいる</p> <p>C: ミニレポートの内容が授業の課題を理解していないものの、授業の課題について考えようとする姿勢を評価できる</p> <p>D: ミニレポートが提出されず出席日数が足りない</p>
テキスト	適宜指示します。
参考書	授業中に指示します
受講者へのメッセージ	授業の中で毎時間提示するさまざまな子どもの問題や教育的課題について、真剣に考えながら受講してほしい。その中から、教育について考えたり子どもと向き合ったりする際のさまざまな課題を見つけられることを望む。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00901	英米語英米文学科 (L2)	Z5004363	中村 長史

科目名	国際学	学年	1	単位	2
サブタイトル	ディレンマとつきあう国際政治	研究室			
教員名	中村 長史	メールアドレス(その他連絡方法)	初回の授業で指示する。		

授業概要	<p>国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともある。国際学の授業を受ける皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしい。</p> <p>この講義では、国際問題を「消極的平和(戦争がなく安全な状態)」に関するものと「積極的平和(繁栄や人間の尊厳が満たされた状態)」に関するものに便宜的に分けて学んでいく。具体的には、まず北朝鮮核開発とシリア難民という現在進行形の事例について、その「構図(What)」、「原因(Why)」、「解決策(How to do)」を考えてみる。次に、過去の事例を確認しながら、国際政治学の基礎的な概念を学ぶ。最後に、これらの概念や過去の事例を踏まえて、北朝鮮核開発とシリア難民について再び考える。</p> <p>講義で用いるパワーポイントは、講義前に各自ダウンロード可能である。ノートをとる負担が少ない分、講義中は教員からの問い掛けに自分の頭で考えることが求められる。ただし、グループワークの時間も適宜設けるので、教員からの問い掛けに一人で悩む必要はなく、仲間の見解も参考にしてほしい。</p> <p>また、折に触れて模擬国連会議(Model United Nations)の簡易版を実施する。多様な利害・価値観に配慮することの重要性を理解するには体感して試みるのが早道であるが、模擬国連会議では、一人一人が米国政府代表や中国政府代表などの担当国になりきって国際問題について話し合う。立場を固定されている点ではディベートと同様である。しかし、相手を論破することで勝利を目指すディベートと異なり、模擬国連会議では合意形成が目的であるため相手の利害・価値観を尊重したうえでの妥協が重要になる。この点を重視し、授業内では対立の激しい二国(例:シリア問題における米国とロシア)を設定して、ロールプレイに取り組んでもらう。</p>
------	---

到達目標	<p>①学んだ概念や事例に関するキーワードについて正確に説明することができる【2回の小テストで評価】。</p> <p>②現在の国際問題の構図について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。</p> <p>③現在の国際問題の原因について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。</p> <p>④現在の国際問題を解決するための政策の選択肢を複数挙げたうえで、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、メリットとデメリットを比べて判断することができる【期末レポートで評価】。</p> <p>⑤多様な利害・価値観に配慮したうえで、問題に対して自分なりの考えを持ち、他者と相談したり、ときには説得したりするという実社会でも求められる方法を習得する【期末レポートで間接的に評価】。</p>
------	---

授業計画	<p>第1回:現在の国際問題:北朝鮮核開発とシリア難民(ガイダンスを含む)</p> <p>第2回:消極的平和を脅かすもの:戦争の原因</p> <p>第3回:消極的平和達成論①:民主的平和と商業的平和</p> <p>第4回:消極的平和達成論②:強制と安心供与</p> <p>第5回:消極的平和達成論③:勢力均衡と同盟</p> <p>第6回:消極的平和達成論④:軍縮と軍備管理</p> <p>第7回:消極的平和達成論⑤:集団安全保障</p> <p>第8回:小括(第1回小テストの実施・解説を含む)</p> <p>第9回:積極的平和を脅かすもの:貧困の原因、人権侵害の原因</p> <p>第10回:積極的平和達成論①:開発援助</p> <p>第11回:積極的平和達成論②:通商</p> <p>第12回:積極的平和達成論③:人権保障</p> <p>第13回:小括(第1回小テストの実施・解説を含む)</p> <p>第14回:現在の国際問題について再び考える:北朝鮮核開発とシリア難民</p> <p>第15回:総括(レポートの解説を含む)</p>
------	--

授業外での学修	<p>【予習】 教科書の指定された部分を読んできて、示されている論点について考えてくること。わからない言葉については調べてくること。</p> <p>【復習】 なるべくその日のうちに一回、翌週の授業開始前にも一回行なうこと。そうすれば、二回の小テストや期末レポートで苦勞することは、ほとんどないと思われる。</p>
---------	--

評価方法	期末レポート(70/100)、第1回小テスト(15/100)、第2回小テスト(15/100)
------	--

評価基準	<p>AA) 国際政治の基礎的な概念を?分に理解し、具体的事例の分析が優れている(総合点が90点以上)。</p> <p>A) 国際政治の基礎的な概念を理解し、具体的事例を分析することができる(総合点が80点以上)。</p> <p>B) 国際政治の概念について理解が不?分なところがあるが、具体的事例を分析する基本的な知識が備わっている(総合点が70点以上)。</p> <p>C) 国際政治の概念について理解が不?分なところが多いが、具体的事例を分析する最低限の知識は?に付けている(総合点が60点以上)。</p> <p>D) 国際政治の概念について理解が不?分なところが多く、事例分析ができていない(総合点が60点未満)。</p>
------	---

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K02	K02B00901	英米語英米文学科(L2)	Z5004363	中村 長史

テキスト	佐藤史郎、川名晋史、上野友也、齊藤孝祐編『日本外交の論点』(法律文化社、2018年)、2592円、ISBN:978-4-589-03903-3 毎回の予習や期末レポートに際して利用するので手元に置いておくこと
参考書	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』(有斐閣、2013年)、3456円、ISBN: 978-4641053786 高度な内容が扱われているが、授業の復習の際に更に学びたい場合に挑戦してほしい
受講者へのメッセージ	講義に出席し、毎回出される教員からの問い掛けを自分の頭で考え仲間と意見交換することを積み重ねていけば、期末レポートが自ずと完成します。一方、出席しない場合はもちろん、漫然と出席しては期末レポートで苦しむこととなり、単位取得も危うくなってしまいます。国際問題は複雑で難しく感じられることもあるかもしれませんが、自分の頭で考える楽しさを味わってもらえるような授業にしたいと思います。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K03	K03B00402	理科専修 (E14)	Z5000016	小川 治雄

科目名	化学	学年	1	単位	2
サブタイトル	身近な物質と化学	研究室			
教員名	小川 治雄	メールアドレス(その他連絡方法)	ogawah@u-gakugei.ac.jp		

授業概要	物質について学ぶことの面白さを多少なりとも伝え、化学の基礎事項を習得することから自然科学的なものの見方・考え方を養う。 内容:化学は物質の構造・特性やその変化を対象とする学問であるが、物質の側面から得られた知見を介することにより、自然科学的なものの見方・考え方の基礎となる化学の基礎事項を解説する。
到達目標	物質の構造・特性やその変化を通しての自然科学的なものの見方・考え方の基礎となる化学の基礎事項を理解する。
授業計画	第1回:化学結合の形態 第2回:金属の熱伝導性と電気伝導性 第3回:化学量論(鉄錆反応を題材に) 第4回:活性錯合体とエネルギー(鉄錆反応を題材に) 第5回:エントロピーとエネルギー(鉄錆反応を題材に) 第6回:宝石とレーザー 第7回:セラミックスとアモルファス物質 第8回:水-身近で不思議な物質 第9回:界面活性剤 第10回:コロイド 第11回:簡単な有機化合物 第12回:高分子化合物 第13回:脂質 第14回:糖類 第15回:アミノ酸とたんぱく質
授業外での学修	各授業テーマとその目標を伝えその予習・復習を促す。
評価方法	期末考査を基に評価する。
評価基準	試験では学習したことが理解できているかを評価する。評価基準は次のとおりとする。AA)形式に不備がなく内容がきわめて優れている。A)形式に不備がなく内容が優れている。B)形式に不備はないが内容がやや不足である。C)形式・内容ともかなり不足している。D)形式・内容とも不十分である。
テキスト	なし
参考書	西口 毅,『現代の生活と物質』,化学同人,2009年,2000円,ISBN978-4-7598-0762-2
受講者へのメッセージ	親しみやすいテーマで化学の基礎から演習を含めて授業を進めていく。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K03	K03B00502	理科専修 (E14)	Z5002747	豊田 健介

科目名	生態学	学年	1	単位	2
サブタイトル	私たちの環境と生態系	研究室			
教員名	豊田 健介	メールアドレス(その他連絡方法)	toyoda@keio.jp		

授業概要	新しい生命現象は日々報告され、情報は常に更新され続けている。社会で生活を営んでいく限り、人と環境の関係性を学ぶことは、分野を問わず、ますます重要になっている。本分野には、白でも黒でもない、科学的証明の不十分な、中には誤った情報も多く存在する。これに対し、本授業では、多くの事例を示し、講義を行う時点で最も優勢な見解から、比較的劣勢な見解も含めわかりやすく私たちの環境と生態系について紹介する。
到達目標	本授業では、図版や視聴覚教材などを取り入れ、効率よく学習することにより、基本的な生命・環境に関する知識を確実に習得する。そして、誤った情報に左右されることなく、持続可能な社会について自身の考えを示せるようになることを目標とする。
授業計画	第1回:イントロダクション:生態学とは? 第2回:地球の誕生, 生命の誕生 第3回:生命の進化 第4回:ヒトの進化 第5回:生物の多様性: 相対的な多様性 第6回:生物の多様性: 遺伝的多様性 第7回:性の意味 第8回:寄生と共生 第9回:生態系と環境 第10回:地球温暖化とは? 第11回:気候変動について考える 第12回:ヒト社会が自然環境に与える影響 第13回:地球上のエネルギーについて考える 第14回:持続可能な社会とは 第15回:授業のまとめ
授業外での学修	授業の予習については、こちらから指示することがある。ただし、授業計画に基づき、自発的な予習を推奨する。また、授業後は、配布されるプリントを基に必ず次の週までに復習を行っておくこと。
評価方法	授業内の小レポート(3回程度)および期末レポート提出により総合的に評価する。 4回以上の欠席および期末レポート未提出はDとする。
評価基準	AA:授業内容が十分に理解できており、さらに発展的学習のあとが見られる。また、試験の解答内容が特に優れている。 A:授業内容が十分に理解できており、試験の解答内容が優れている。 B:授業内容の理解が不十分である、あるいは試験の解答内容がやや劣っている。 C:授業内容の理解が不十分であり、試験の解答内容が劣っている。 D:授業内容がほとんど理解できておらず、試験の解答内容が著しく劣っている。
テキスト	使用しない。授業毎に資料を配布する。
参考書	D.サタヴァ他(著)石崎・斎藤(監訳)「カラー図解 アメリカ版大学生物学の教科書 第5巻 生態学」講談社ブルーバックスなど。詳細は授業中に指示する。
受講者へのメッセージ	本授業では、必ずしも高校までの生物の知識を求めませんが、本講義より先に、生物学を履修することを強く勧めます。より効率よく、深く理解を深めるために、DVDなどの視聴覚資料を使用します。 日々更新される先端科学の公開やみなさんの興味によっては、授業計画を変更することもあります。 本分野には、白でも黒でもない、科学的証明の不十分な、中には誤った情報も多く存在します。これに対し、多くの事例を示し、授業を行う時点で最も優勢な見解から、比較的劣勢な見解も含めわかりやすく紹介します。偏った情報に左右されない、かつ自身の

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K03	K03B00602	理科専修 (E14)	Z5002747	豊田 健介

科目名	生物学	学年	1	単位	2
サブタイトル	遺伝子から考える生命のしくみ	研究室			
教員名	豊田 健介	メールアドレス(その他連絡方法)	toyoda@keio.jp		

授業概要	<p>新しい生命現象は日々報告され、情報は常に更新され続けている。社会で生活を営んでいく限り、「生物学」「生命科学」を学ぶ事は、分野を問わず、ますます重要になっている。そして、これまで明確に理系・文系にカテゴライズされてきた分野だけでなく、近年ではひとつの学問領域に限定されない、さまざまな複合領域が社会に浸透している。</p> <p>このような状況の中、大学では、ある特定の専門分野を深く学ぶと共に、さまざまな教養科目をバランスよく学習することが大事である。遺伝子組み換え食品、なぜホタルが光るのか、遺伝、進化、病気、がん細胞とは？など、実生活の中でよく見かけたり耳にしたりする事柄の多くは、比較的簡単に理解できるようになる。本授業では、生命の成り立ちや、生物(ヒトを含む)にかかわる現象を、「遺伝子」をベースに学習する。</p>
到達目標	正しい生物学の知識をもち、誤った風評や科学データに惑わされない、自身の考えを科学的に論じられるようになることを目標とし、学生自身が生命について日ごろから考えるきっかけになることを望む。
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 第2回: 生命の最小単位: 生命の定義について考える</p> <p>第3回: 遺伝子とは?: DNAとRNAの構造 第4回: 遺伝子とは?: 転写・翻訳, セントラルドグマ 第5回: 遺伝子とは?: その働き 第6回: 生命と有機化合物 第7回: 生命の恒常性(ホメオステシス) 第8回: 病気と免疫: 液性免疫と細胞性免疫 第9回: 病気と免疫: 自己と非自己 第10回: 病気と免疫: 細菌とウイルス 第11回: ガン細胞とは? 第12回: クローン技術とその応用 第13回: 先端生命科学について考える 第14回: 生命倫理 第15回: 授業まとめ</p>
授業外での学修	授業の予習については、こちらから指示することがある。ただし、授業計画に基づき、自発的な予習を推奨する。また、授業後は、配布されるプリントを基に必ず次の週までに復習を行っておくこと。
評価方法	小レポート(1,2回程度)および期末テスト(記述を含む)を総合的に評価する。 4回以上の欠席はDとする。
評価基準	<p>AA: 探求心をもって課題に取り組み、理解が特に優れている。</p> <p>A: 課題に真面目に取り組み、良く理解している。</p> <p>B: 課題に取り組む態度にやや難があり、理解がやや不足している。</p> <p>C: 課題に取り組む態度に難があり、理解が十分ではなすが、最低限理解している。</p> <p>D: 課題に取り組む態度に難があり、理解が不十分である。</p>
テキスト	授業毎に資料を配布する。
参考書	やさしい基礎生物学 (羊土社) 日本語版。 Ya・Sa・Shi・I Biological Science (Yodosha CO. LTD) 英語版。
受講者へのメッセージ	<p>本授業では、必ずしも高校までの生物の知識を求めません。授業では、より効率よく、深く理解を深めるために、DVDなどの視聴的資料を使用します。</p> <p>日々更新される先端科学の公開やみなさんの興味によっては、授業計画を変更することもあります。</p> <p>本分野には、白でも黒でもない、科学的証明の不十分な、中には誤った情報も多く存在します。これに対し、多くの事例を示し、授業を行う時点で最も優勢な見解から、比較的劣勢な見解も含めわかりやすく紹介します。偏った情報に左右されない、かつ自身の考えをしっかりと持つことを願います。</p>

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K03	K03B00702	理科専修 (E14)	25000072	大石 昇

科目名	生理学	学年	1	単位	2
サブタイトル	ヒトと動物のからだのしくみ	研究室			
教員名	大石 昇	メールアドレス(その他連絡方法)	noboru.oishi@nifty.com		

授業概要	<p>ヒトの体を構成する器官系のつくりとしくみについて、身近な現象や、たとえを用いて、できるだけ平易に概説します。テキストで医学的・古典的な内容を押さえ、テキストにない科学的な背景・他の生き物の話題・新しい考え方などをプリントで補足します。それぞれの器官系について明確なイメージを持ち、からだのしくみを説明できることを目標にします。</p>
到達目標	<p>呼吸のしくみをストーリー立てて説明できる。 循環のしくみをストーリー立てて説明できる。 消化・吸収のしくみをストーリー立てて説明できる。 泌尿生殖器のしくみをストーリー立てて説明できる。 骨と運動のしくみをストーリー立てて説明できる。 神経系のしくみをストーリー立てて説明できる。 感覚のしくみをストーリー立てて説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回:細胞・組織・血液(テキスト第1章「細胞」) 細胞と組織と器官～コラーゲンは食べても身につかない。血液のつくり～赤血球は柔らかいドーナツ。他。 第2回:呼吸のしくみ1(テキスト第2章「呼吸器」) 呼吸とは何か～なぜ酸素がいるのか。肺胞のひみつ～ミッキー風船の耳はふくらみにくい。他。 第3回:呼吸のしくみ2(テキスト第2章「呼吸器」) ガス交換のしくみ～胎児のヘモグロビンは酸素親和性が高い。換気と肺活量～イヌはなぜあえぐのか。他。 第4回:循環のしくみ1(テキスト第3章「循環器」) 循環器系～ワニは絶滅しない。心臓～ベンは2度心音を鳴らす。他。 第5回:循環のしくみ2(テキスト第3章「循環器」) 血管～血めぐりは元気の元。キリンは高血圧。他。 第6回:消化・吸収のしくみ1(テキスト第4章「消化器」) 消化は加水分解である。哺乳類は歯が命。ゴリラは頭がマッスル。他。 第7回:消化・吸収のしくみ2(テキスト第4章「消化器」) 肝臓は主婦(夫)の鑑。胆のうがない動物は馬鹿か。盲腸は時間稼ぎで働く。他。 第8回:泌尿生殖器のしくみ1(テキスト第5章「泌尿器・生殖器・内分泌器」) 泌尿器と浸透圧～むくみと脱水に注意。腎臓のやり方は「引越し方式」。他。 第9回:泌尿生殖器のしくみ2(テキスト第5章「泌尿器・生殖器・内分泌器」) 性と遺伝子～ニモは性転換する? 性と発生～ゲノムの刷り込みとは何か。他。 第10回:骨格と運動のしくみ1(テキスト第6章「骨・筋肉」) 骨はダイナミックな組織。ぎっくり腰にならない方法。運動単位～火事場の馬鹿力の源。他。 第11回:骨格と運動のしくみ2(テキスト第6章「骨・筋肉」) 筋肉痛の対処法～炎症がなければ暖める。体温調節～ヒトはなぜ太りやすいか。他。 第12回:神経系のしくみ1(テキスト第7章「神経」) 神経地図～スキンシップは心を活性化する。神経細胞～ニューロンは「いいね!」がないと元気が出ない。他。 第13回:神経系のしくみ2(テキスト第7章「神経」) 脳は超並列処理システム～脳と意識が矛盾を解消して合理化する。脳は鏡～ミラーニューロンが行動を模倣する。他。 第14回:感覚のしくみ1(テキスト第8章「感覚器」) 視覚～白い画面にキリンが見える? 聴覚～静けさの「シーン」は擬音語か。他。 第15回:感覚のしくみ2(テキスト第8章「感覚器」) 嗅覚～マウスは二酸化炭素が「匂う」。味覚～ネコに甘党はいない。他。</p>
授業外での学修	教科書を用いた予習・復習・課題レポート作成を、レポート1回あたり15時間程度必要です。
評価方法	<p>4回の課題レポートを合計72%、授業内レポート(リアクションペーパー:5行以上)を28%の割合で評価します。 毎回の課題レポートの形式は、必ず以下の通りにして下さい。 A4縦レポート用紙2枚以上、横書き、手書きで2,000字以上(最低2枚は下まで埋めること、多ければ相応に評価します)、表紙不要、右上に大きく、学年、学籍番号、氏名、レポートの回数(丸数字で)、提出日を明瞭に記入し、左上をホチキスで止める。 レポートのテーマは授業中に指示します。参考・引用資料(著者名・書名・出版年ほか)を必ず記して下さい。インターネット二次資料はできるだけ用いず、原著を参照して下さい。</p>
評価基準	AA:形式に不備がなく内容が特に優れている。A:形式に不備がなく出題意図に応じた内容である。B:形式または内容にやや不備・不足がある。C:形式・内容とも難点がある。D:課題がこなせていない。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K03	K03B00702	理科専修 (E14)	Z5000072	大石 昇

テキスト	堺 章『目でみるからだのメカニズム 第2版』医学書院 3000 円税別 ISBN:4-260-02776-2
参考書	特になし
受講者へのメッセージ	毎回、プリントを配布します。また、授業内レポートとして、リアクションペーパー(5行以上)の提出が必要です。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K04	K04B00202	心理教育課程 (E3)	Z0000682	浅野 信彦

科目名	総合講座2	学年	1	単位	2
サブタイトル	発達援助のための教育学	研究室	13310		
教員名	浅野 信彦	メールアドレス(その他連絡方法)	最初の授業で指示する		

授業概要	<p>教育学は、本来、学校教育だけを対象にするものではない。人間社会に普遍的にみられる「人が学び、育つことを支援する」という営みを様々な学問的方法によって解明することをめざす総合科学である。</p> <p>本講座を担当する12名の教員は本学教育学部で教員養成に携わっているわけであるが、この講座では「発達援助のための教育学」という共通テーマを掲げ、それぞれの専門の立場からアプローチする。各教員の専門分野がいかに多様であるかは、教員のラインナップからも明らかであろう。</p> <p>講座全体を通して、各教員の専門性が「発達援助のための教育学」の構想にどのように貢献しうかがおのずと明らかになるであろう。</p> <p>この試みによって、教育学の「総合科学」としての特質を浮き彫りにすることができると思う。</p>
到達目標	<p>1) 各回の講義を通して「発達援助のための教育学」とは何かを自分なりに考えることができる</p> <p>2) 各回の講義をきっかけに教育に対する問題意識を深め、さらに深く調べてみるなど、主体的・能動的に学ぶ姿勢を身に付ける</p>
授業計画	<p>第1回:「発達援助のための教育学」を構想する(浅野信彦)</p> <p>第2回:学校における教育実践の可能性(浅野信彦)</p> <p>第3回:精神医学の視点から(井上清子)</p> <p>第4回:カウンセリングの視点から(会沢信彦)</p> <p>第5回:スポーツ心理学の視点から(高井和夫)</p> <p>第6回:音楽教育の視点から(小倉隆一郎)</p> <p>第7回:保育・幼児教育の視点から(石川洋子)</p> <p>第8回:生活科教育の視点から(小幡肇)</p> <p>第9回:社会福祉の視点から(大月和彦)</p> <p>第10回:気になる子どもの支援を考える(小野里美帆)</p> <p>第11回:発達心理学の視点から(桑原千明)</p> <p>第12回:算数・数学教育の視点から(清水邦彦)</p> <p>第13回:教育史の視点から(太郎良信)</p> <p>第14回:教育制度論の視点から(葉養正明)</p> <p>第15回:発達援助のための総合科学としての教育学(浅野信彦)</p>
授業外での学修	各回の授業担当者からレポート課題が出されるので、指定された期限までに提出すること。全課題のうち3分の1以上が未提出の者は評価対象としない。
評価方法	各回の担当教員が担当終了時にレポートを課すので、それらの合計点で評価する。
評価基準	<p>オムニバスの各担当教員が課題を出し、学生が提出したレポートの合計点で評価する。全課題のうち3分の1以上が未提出の者は評価対象としない。</p> <p>AA) 授業内容を深く理解し、レポートの内容が特に優れている。A) 授業内容を理解し、レポートの内容が優れている。B) 授業内容の理解が不十分で、レポートの内容に難がある。C) 授業内容を理解しておらず、レポートの内容に大きな難がある。D) 授業内容を全く理解しておらず、課題がこなせていない。</p>
テキスト	使用しない
参考書	適宜資料を配付する
受講者へのメッセージ	<p>14回分のレポート課題のうち、10課題以上を提出していない者は、単位認定の対象としない。</p> <p>毎回のレポート課題をこなす自信がない者には、この講義の受講をおすすめしない。</p> <p>就職活動等で授業を欠席した場合も特別な配慮は行わないので、課題を提出すること。</p>

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K04	K04B00601	人間科学科 (H1)	Z0000798	二宮 雅也

科目名	総合講座6	学年	1	単位	2
サブタイトル	現代オリンピック・パラリンピック論	研究室	12421		
教員名	二宮 雅也	メールアドレス(その他連絡方法)	ninomi-m@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	2020年オリンピック・パラリンピックの開催を控え、オリンピズムについて正しい理解を獲得し、その大会開催の意味を多角的に捉えていくことが重要になっています。この授業では、現代社会におけるオリンピック・パラリンピックを担当するそれぞれの講師の専門分野から捉え、社会のさまざまな側面からオリンピック・パラリンピックをめぐる論点を学生とともに考える授業を目指します。本科目は以下の2つの要素からなる。 ・テーマに関連する領域の教員によるリレー講義 ・可能であれば、オリンピック・パラリンピック選手によるゲスト講義も適宜開催する予定である。
到達目標	現代社会におけるオリンピック・パラリンピックを社会を取り巻く構造的な理解を含め多角的な観点から考察ができるようになること。
授業計画	第1回:オリエンテーション・オリンピック・パラリンピックの概要 第2回:オリンピック・パラリンピックが孕む諸問題 第3回:オリンピック・パラリンピックの構造的課題 第4回:オリンピック・パラリンピックの歴史学 第5回:フランス思想史からみるオリンピック・パラリンピック 第6回:ドイツ青年運動とオリンピック・パラリンピック 第7回:オリンピック・パラリンピックと大学連携 第8回:オリンピック・パラリンピックを支えるボランティア 第9回:パラリンピックの世界 第10回:オリンピック・パラリンピックと陸上競技 第11回:冬季オリンピック・パラリンピックの世界 第12回:パラリンピアンの世界 第13回:オリンピック・パラリンピックと学校教育 第14回:メディアスポーツとしてのオリンピック・パラリンピック 第15回:オリンピック・パラリンピックのレガシー
授業外での学修	講義毎に紹介する資料や文献を次回までに読んでおく。
評価方法	期末レポート(60%)と各回のワークシートの提出状況(40%)で評価する。
評価基準	AA 授業内での諸活動の目標を十分に達成し、オリンピック・パラリンピックの領域理解についてきわめて優秀な成果をおさめている A 授業内での諸活動の目標を達成し、オリンピック・パラリンピックの基礎的な領域理解について優秀な成果をおさめている B 授業内での諸活動の目標を達成し、オリンピック・パラリンピックの基礎的な領域理解について最低限度成果をおさめている C 授業内での諸活動に不足があるものの、オリンピック・パラリンピックの基礎的な領域理解について最低限度成果をおさめている D 目標を達成していないので再履修が必要である
テキスト	授業中に指示する
参考書	スポーツボランティア読本「支えるスポーツ」の魅力とは? 二宮雅也 悠光堂 ISBN:978-4-906873-84-5
受講者へのメッセージ	外部講師の関係で、授業の順番が入れ替わることがあります。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K04	K04B00701	体育専修 (E17)	Z0000856	佐藤 正伸

科目名	総合講座7	学年	1	単位	2
サブタイトル	幸せな進路選択のために	研究室			
教員名	佐藤 正伸	メールアドレス(その他連絡方法)	masanobu@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	<p>この講座は、自分自身の将来に向けて今取り組むべきことや今後の過ごし方などを考えるとともに社会人としての基礎力を身につけることを目的とする。本学卒業生を中心に「教員」「公務員」「企業」などさまざまな領域で働く方の職業観や体験談などを聴き、また、社会人としての基礎力を身につけるワーク等を行う。</p> <p>(履修上の注意)・「総合講座7」は、金曜1限、2限の2クラスが設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの定員は300名。 ・履修希望者がこのクラス定員を超過した場合は抽選を行う。
到達目標	受講を通じて、社会が求める人材を理解するとともに、自分の将来設計の育成を図る。
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションと基調講話 /働くことを考える(就職委員長)</p> <p>第2回:多様な職業観、人生観に触れる(1)企業で働く</p> <p>第3回:新聞を読む</p> <p>第4回:充実した学生生活を送るには</p> <p>第5回:多様な職業観、人生観に触れる(2)公務員として働く(専門職)</p> <p>第6回:多様な職業観、人生観に触れる(3)教員として働く</p> <p>第7回:多様な職業観、人生観に触れる(4)社会で働くOB・OGからのメッセージ</p> <p>第8回:多様な職業観、人生観に触れる(5)公務員として働く(行政職)</p> <p>第9回:人としての力をつけ、自信をつけよう(1)考え、書く力をつける方法を養おう</p> <p>第10回:人としての力をつけ、自信をつけよう(2)人間基礎力から社会人基礎力へ</p> <p>第11回:人としての力をつけ、自信をつけよう(3)社会に関心を持ち、必要な情報の収集方法を身につける</p> <p>第12回:人としての力をつけ、自信をつけよう(4)チームワーク・協調性を学び、コミュニケーションの意味と重要性を理解する</p> <p>第13回:人としての力をつけ、自信をつけよう(5)柔軟な発想力を学び、プレゼンテーションの意味と重要性を理解する</p> <p>第14回:人としての力をつけ、自信をつけよう(6)働く上で重視する自分自身の価値観について考える</p> <p>第15回:学生生活と進路・就職(キャリア支援課長) /今後の学生生活の過ごし方 /社会人基礎力を身につける</p>
授業外での学修	受講生は、進路についての職域や職種を事前に調べ、授業終了後は講義の内容を踏まえた自らの将来設計を検討する
評価方法	毎回のコメントカードの提出(30%)及び課題レポート(70%)により行う
評価基準	<p>AA:積極的に授業に参加して自らのキャリア形成を十分に図り、課題等の内容が特に優れている</p> <p>A :積極的に授業に参加して自らのキャリア形成を図り、課題等の内容が優れている</p> <p>B :授業に参加して自らのキャリア形成を図り、課題等の内容は普通である</p> <p>C :授業に参加して自らのキャリア形成を図り、受講学生としては最低限の課題内容である</p> <p>D :受講学生として自らのキャリア形成が不十分で、課題が基準に満たない</p>
テキスト	資料を配付する。
参考書	使用しない。
受講者へのメッセージ	卒業後の進路選択は、あなたの人生設計で大きな意味を持っています。希望の進路を実現するための第一歩として、この講座で自分自身の人生を振り返り、社会人としてのスタートが切れるようチャレンジしてください。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
K	K04	K04B00702	体育専修 (E17)	Z0000856	佐藤 正伸

科目名	総合講座7		学年	1	単位	2
サブタイトル	幸せな進路選択のために		研究室			
教員名	佐藤 正伸	メールアドレス(その他連絡方法)	masanobu@koshigaya.bunkyo.ac.jp			

授業概要	<p>この講座は、自分自身の将来に向けて今取り組むべきことや今後の過ごし方などを考えるとともに社会人としての基礎力を身につけることを目的とする。本学卒業生を中心に「教員」「公務員」「企業」などさまざまな領域で働く方の職業観や体験談などを聴き、また、社会人としての基礎力を身につけるワーク等を行う。</p> <p>(履修上の注意)・「総合講座7」は、金曜1限、2限の2クラスが設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの定員は300名。 ・履修希望者がこのクラス定員を超過した場合は抽選を行う。
到達目標	<p>受講を通じて、社会が求める人材を理解するとともに、自分の将来設計の育成を図る。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションと基調講話 /働くことを考える(就職委員長)</p> <p>第2回:多様な職業観、人生観に触れる(1)企業で働く</p> <p>第3回:新聞を読む</p> <p>第4回:充実した学生生活を送るには</p> <p>第5回:多様な職業観、人生観に触れる(2)公務員として働く(専門職)</p> <p>第6回:多様な職業観、人生観に触れる(3)教員として働く</p> <p>第7回:多様な職業観、人生観に触れる(4)社会で働くOB・OGからのメッセージ</p> <p>第8回:多様な職業観、人生観に触れる(5)公務員として働く(行政職)</p> <p>第9回:人としての力をつけ、自信をつけよう(1)考え、書く力をつける方法を養おう</p> <p>第10回:人としての力をつけ、自信をつけよう(2)人間基礎力から社会人基礎力へ</p> <p>第11回:人としての力をつけ、自信をつけよう(3)社会に関心を持ち、必要な情報の収集方法を身につける</p> <p>第12回:人としての力をつけ、自信をつけよう(4)チームワーク・協調性を学び、コミュニケーションの意味と重要性を理解する</p> <p>第13回:人としての力をつけ、自信をつけよう(5)柔軟な発想力を学び、プレゼンテーションの意味と重要性を理解する</p> <p>第14回:人としての力をつけ、自信をつけよう(6)働く上で重視する自分自身の価値観について考える</p> <p>第15回:学生生活と進路・就職(キャリア支援課長) /今後の学生生活の過ごし方 /社会人基礎力を見つける</p>
授業外での学修	<p>受講生は、進路についての職域や職種を事前に調べ、授業終了後は講義の内容を踏まえた自らの将来設計を検討する</p>
評価方法	<p>毎回のコメントカードの提出(30%)及び課題レポート(70%)により行う</p>
評価基準	<p>AA:積極的に授業に参加して自らのキャリア形成を十分に図り、課題等の内容が特に優れている</p> <p>A :積極的に授業に参加して自らのキャリア形成を図り、課題等の内容が優れている</p> <p>B :授業に参加して自らのキャリア形成を図り、課題等の内容は普通である</p> <p>C :授業に参加して自らのキャリア形成を図り、受講学生としては最低限の課題内容である</p> <p>D :受講学生として自らのキャリア形成が不十分で、課題が基準に満たない</p>
テキスト	<p>資料を配付する。</p>
参考書	<p>使用しない。</p>
受講者へのメッセージ	<p>卒業後の進路選択は、あなたの人生設計で大きな意味を持っています。希望の進路を実現するための第一歩として、この講座で自分自身の人生を振り返り、社会人としてのスタートが切れるようチャレンジしてください。</p>

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
H	H02	H02B00202	人間科学科 (H1)	Z0000345	大塚 明子

科目名	社会学概論	学年	1	単位	2
サブタイトル		研究室	12318		
教員名	大塚 明子	メールアドレス(その他連絡方法)	otsuka@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	人間は社会的な動物であり、私たちの「自己」それ自体も、最初から社会的なものとして形作られている。社会学は、こうした個人と社会の関係を中心主題として、政治・経済・法から宗教・家族など、社会というものを総合的に取り扱おうとする社会科学の一分野である。本講義は、社会学の方法論の基本と、相互行為から地域に至るミクロから中間水準の諸問題を理解することを目的とする。
到達目標	社会学の様々な領域のうち、相互行為論・集団論・地域社会学の基礎を十分に習得すること。
授業計画	第1回: イントロダクション: 社会学の対象と方法 第2回: 相互行為①(状況の定義と規範の3類型) 第3回: 相互行為②(サンクションと社会化) 第4回: 相互行為③(ドラマトルギー論) 第5回: 社会関係①(交換理論) 第6回: 社会関係②(ネットワーク) 第7回: 集団①(集団の定義と2類型) 第8回: 集団②(家族の定義) 第9回: 集団③(伝統家族と近代家族) 第10回: 集団④(ゲゼルシャフト) 第11回: 集団⑤(官僚制) 第12回: 集団⑥(機能分析) 第13回: 地域①(農村・都市・郊外) 第14回: 地域②(シカゴ学派) 第15回: 地域③(江戸から東京へ)
授業外での学修	社会学の入門的な文献を読んでおくこと。
評価方法	100点満点のマークシート方式の試験。内容は、授業で取り上げた様々なテーマについて、キーワードを回答するもの。
評価基準	試験の評点を、「履修のてびき」に準じる基準で評価する。
テキスト	資料を配付する
参考書	授業中に指示する
受講者へのメッセージ	

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
H	H02	H02B00401	人間科学科 (H1)	Z0000877	金藤 ふゆ子

科目名	生涯学習学概論	学年		単位	2
サブタイトル	生涯学習の基礎理論、実態の理解	研究室			
教員名	金藤 ふゆ子	メールアドレス(その他連絡方法)	第1回めの授業で連絡・指示します。		

授業概要	本授業は生涯学習の意義や歴史、生涯学習の内容・方法、指導者論のほか、生涯学習関連施設の現況や生涯学習行政の動向、さらには企業の取り組む生涯学習関連事業などにテーマについて実証的なデータを基に説明を行う。受講生は本授業を通じて生涯学習への関心を深め、生涯学習の基本的な考え方を学ぶとともに、一人の生涯学習者として、今後の教育・学習のあり方について生涯学習の観点から考えることを期待したい。
到達目標	学生は本授業を通して、生涯学習の理論と実践を理解することができる。
授業計画	第1回:本授業のガイダンス 第2回:生涯学習の意義・概念の理解 第3回:生涯学習の歴史－日本・欧米の場合－ 第4回:生涯学習・社会教育の法制と行政 第5回:生涯学習の推進を図る必要性を高めた社会的背景 第6回:生涯学習関連施設の現状と課題 第7回:生涯学習の内容と方法の理解 第8回:世界の生涯学習政策 第9回:生涯学習と関連団体－NPO/NGOを含めて－ 第10回:地域スポーツの推進と生涯学習 第11回:生涯学習とボランティア活動 第12回:生涯学習と企業－企業が取り組む生涯学習関連事業－ 第13回:生涯学習に関する現代的課題1－学校・家庭・地域の連携－ 第14回:生涯学習に関する現代的課題2－貧困・格差社会を生きる子どものくらしと生涯学習－ 第15回:授業のまとめと試験
授業外での学修	授業内容について予めテキストに目を通し、また前回の授業について関係資料に目を通して授業に参加してください。
評価方法	授業への出席を基本とし、授業態度、講義中のリアクションペーパー、期末試験を基に総合的に評価します。
評価基準	授業への出席を基本とし、①授業中の発言や提出物、②期末試験を基に総合的に評価する。評価基準は次のように定める。AA) 授業に積極的に参加し、課題を的確に理解し、期末試験の結果が特に優れている。A) 授業に積極的に参加し、課題を的確に理解し、期末試験の結果が優れている。B) 授業に参加しているが、課題の理解や期末試験の結果にやや不足・難点がある。C) 授業に参加しているが、課題の理解力や期末試験の結果が不十分・難点がある。D) 授業への参加に問題があり、課題の理解も全くできていない。
テキスト	手打明敏他編著『社会教育・生涯学習』、ミネルヴァ書房、2019年
参考書	立田慶裕、岩崎久美子、金藤ふゆ子他著『生涯学習の理論』、福村出版、2012。その他の参考書は、適宜、授業中に紹介・指示する
受講者へのメッセージ	本授業は講義のみでなく、実際の生涯学習活動を示す映像資料や統計資料を活用した授業を展開します。j 受講生によるグループ演習も取り入れながら授業を進めるため、12号館101教室を予定しています。その教室を超える受講希望者が出た場合は、抽選により受講者を決定します。なお4年生の受講希望者を優先して受講を認めることとします。1～3年生については公平な選抜を行います。本授業を通じて、生涯学習の理論と実践の基礎を学び、今後の自分自身の学習のあり方についても考えるきっかけとしてください。聴講生・科目等履修生の受講は

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
H	H02	H02B00601	心理学科 (H3)	Z0000556	岡村 達也

科目名	臨床心理学概論	学年	1	単位	2
サブタイトル	臨床心理学の「成り立ち」と「代表的な基礎理論」	研究室	12433		
教員名	岡村 達也	メールアドレス(その他連絡方法)	okamura@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	<p>本科目は「公認心理師のカリキュラム」の「大学における必要な科目」の「③臨床心理学概論」に該当します。本科目に「含まれる事項」は「1. 臨床心理学の成り立ち」「2. 臨床心理学の代表的な理論」の2つと規定されています。</p> <p>本授業では、「病理論」「アセスメント論」「治療論」の3つを“代表的な理論”とする旧来型の臨床心理学概論ではなく、それぞれ「病理論」「アセスメント論」「治療論」を含む“臨床心理学の代表的な基礎理論”に沿って授業を行います(固有の病理論(異常心理学)は「?精神疾患とその治療」、アセスメント論は「④心理的アセスメント」、治療は「⑤心理学的支援法」に対応し、科目が設置されます)。</p> <p>旧来型の臨床心理学概論との対応を図りながら授業を行いますので、“市民的常識としての臨床心理学”の授業にもなります。</p>
到達目標	<p>(1) 臨床心理学の体系について概説できる。</p> <p>(2) 臨床心理学の成り立ちについて概説できる。</p> <p>(3) 臨床心理学の代表的な基礎理論について概説できる。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:I 臨床心理学とは何か</p> <p>1. 臨床心理学の定義・理念・体系</p> <p>第3回: 2. 世界の臨床心理学</p> <p>第4回: 3. 日本の臨床心理学</p> <p>第5回:II 臨床心理学の基礎理論</p> <p>4. 臨床心理学理論の展開</p> <p>第6回: 5. 精神分析的アプローチ</p> <p>第7回: 6. 行動論・認知論的アプローチ</p> <p>第8回: 7. ヒューマニスティック・アプローチ</p> <p>第9回: 8. システミック・アプローチ(心理学的支援法の基礎理論としての「夫婦・家族療法」を含む)</p> <p>第10回: 9. 統合的アプローチ</p> <p>第11回:III 心理学的支援法の基礎理論</p> <p>10. 個人心理療法</p> <p>第12回: 11. グループ・アプローチ</p> <p>第13回: 12. コミュニティ・アプローチ</p> <p>第14回:まとめ:確認テスト</p> <p>第15回:まとめ:確認テスト解説</p>
授業外での学修	<p>(1) ほぼ毎回、配付資料ないし教科書対応項の復習課題があります。詳細は授業時に指示します。</p> <p>(2) 課題図書に関するレポートがあります。詳細は授業時に指示します。</p>
評価方法	<p>(1) 授業内容の理解度に関するテスト(80%)</p> <p>(2) 課題図書に関するレポート(20%)</p>
評価基準	<p>S:授業内容をよく理解しており、かつ、レポートにオリジナリティがある。</p> <p>A:授業内容をよく理解しているが、レポートにオリジナリティがない。</p> <p>B:授業内容の理解がほぼほぼだが、レポートにオリジナリティがある。</p> <p>C:授業内容の理解がほぼほぼで、かつ、レポートにオリジナリティがない。</p> <p>D:授業内容をほとんど理解していない(レポートのオリジナリティの評価は行いません)。</p>
テキスト	<p>・野島 一彦・岡村 達也(編)(2018). 臨床心理学概論 遠見書房(税込2,592円)ISBN-10: 4866160535</p> <p>第1回授業時、第2回授業時に現金引換(2,100円)で頒布します。必携です。</p> <p>・Norcross, J. C., Vandenbos, G. R., & Freedheim, D. K. (Eds.) (2016). APA handbook of clinical Psychology (Vols. 1-5). American Psychological Association</p>
参考書	<p>・原田 隆之(2015). 心理職のためのエビデンス・ベースト・プラクティス 金剛出版</p> <p>・日本心理研修センター(監修)(2019). 公認心理師現任者講習会テキスト[2019年版] 金剛出版</p> <p>・丹野 義彦・石塚 琢磨・毛利 伊吹・佐々木 淳・杉山 明子(2015). 臨床心理学 有斐閣</p> <p>・渡辺 俊之・小森 康永(2014). バイオサイコソーシャルアプローチ 金剛出版</p>
受講者へのメッセージ	<p>(1)「授業中は静粛を保つこととし、違反があった場合は退室する」を履修上の契約とします。</p> <p>契約違反(=退室しない)の場合、単位を認定しません。</p> <p>(2)「心理学研究法」「心理学統計法I」ないし相当科目の既習ないし併習が望まれます。</p> <p>(3) 学習効率や適正評価のため、さまざまな変更がありえます。</p> <p>・聴講生・科目等履修生の受講可否:可。</p>

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
H	H02	H02B00602	臨床心理学科 (H2)	Z0001030	鍛冶 美幸

科目名	臨床心理学概論	学年	1	単位	2
サブタイトル	臨床心理学の成り立ちと、代表的な理論		研究室		
教員名	鍛冶 美幸	メールアドレス(その他連絡方法)	授業時にお伝えします		

授業概要	臨床心理学は、心理的な問題に苦しむ方への支援を目的に発展してきた心理学の一分野です。その発展の過程では様々な理論や技法が生み出され、治療の対象も多岐にわたるようになりました。本講義では、そうした臨床心理学の歴史を概観し、さらに代表的な理論や技法を概説します。 本科目は「公認心理師のカリキュラム」のうち、「大学における必要な科目」の「臨床心理学概論」に対応するものです。本科目に含まれる事項は、「①臨床心理学の成り立ち」と「②臨床心理学の代表的な理論」です。
到達目標	1. 臨床心理学の基本的理念と体系について理解し、概説できる。 2. 臨床心理学の成立と発展の過程を概説できる。 3. 臨床心理学の代表的な理論と技法について理解し、概説できる。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:臨床心理学の理念と体系 第3回:臨床心理学の成り立ち①:心理学から臨床心理学へ 第4回:臨床心理学の成り立ち②:日本での歩み 第5回:心理療法の構造とプロセス 第6回:臨床心理学の代表的な理論①:精神分析 第7回:臨床心理学の代表的な理論②:分析心理学 第8回:臨床心理学の代表的な理論③:人間性心理学 第9回:臨床心理学の代表的な理論④:認知行動療法 第10回:臨床心理学の代表的な理論⑤:家族療法とシステムズアプローチ 第11回:そのほかの代表的な理論と技法:集団療法、芸術療法 第12回:そのほかの代表的な理論と技法:ゲシュタルト療法、トラウマ治療 第13回:そのほかの代表的な理論と技法:日本で発展した理論と技法 第14回:臨床心理学の展開:コミュニティアプローチ、チームアプローチ 第15回:まとめ:テスト(終了後、解説)
授業外での学修	授業準備として、適宜資料を配布します。また、授業時には復習用の課題を指示します。
評価方法	授業内での小テストと期末テスト(80%)、レポート(20%)
評価基準	S:試験成績、レポートとも優れている。 A:試験成績が優れており、レポート内容が適切である。 B:試験成績は一定水準に達しており、レポート内容が適切である。 C:試験成績、レポート内容とも十分とは言えないが、最低限の理解ができています。 D:試験成績、レポート内容とも劣っており、授業内容をほとんど理解できていない。
テキスト	授業時に資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業時に紹介する。
受講者へのメッセージ	公認心理師資格を受験するための必須科目ですが、これから臨床心理学を学んでいくための入り口として、様々な理論や技法に広く触れることができる授業です。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
L	L01	L01C05501	日本語日本文学科 (L1)	Z5003896	青木 祐子

科目名	演劇論 1	学年	2	単位	2
サブタイトル	鬼女の芸能	研究室			
教員名	青木 祐子	メールアドレス(その他連絡方法)	最初の授業で指示する。		

授業概要	能とお伽草子の関係を紐解くことは、能の成立と受容を考える上で重要な課題である。能とお伽草子の関係に注目し、能が演劇としてどのような効果を発揮しているかについて考察を深めながら、能および演劇全般に対する分析的理解に必要な視野と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	能をはじめとした古典芸能に対して、鑑賞に必要な基礎知識を身に付け、分析的理解ができるようになる。
授業計画	第1回: ガイダンス 第2回: 能とお伽草子(概説) 第3回: お伽草子「道成寺縁起」と絵解き(概説と鑑賞) 第4回: 能「道成寺」(概説) 第5回: 能「道成寺」(鑑賞) 第6回: 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」(概説と鑑賞) 第7回: お伽草子「かなわ」(概説) 第8回: 能「鉄輪」(概説) 第9回: 能「鉄輪」(鑑賞) 第10回: 能「葵上」(概説) 第11回: 能「葵上」(鑑賞) 第12回: 能「黒塚」(概説) 第13回: 能「黒塚」(鑑賞) 第14回: 歌舞伎「黒塚」(概説と鑑賞) 第15回: まとめとテスト
授業外での学修	事前に配布される資料を読んだうえで、講義に臨むようにすること。疑問点や質問事項について、図書館等を利用して調べ学習をする。
評価方法	学修態度(20%)、鑑賞コメントシート(30%)、小レポート(20%)、試験(30%)
評価基準	AA) 優れた学修態度および講義内容を理解し独自の観点を持ったコメントシート、かつ優れたレポートと試験成績で、作品理解に特に優れている。 A) 良好な学修態度および講義内容を理解したコメントシート、かつ良好なレポートと試験成績で、作品読解にも優れている。 B) 学修態度、鑑賞コメントシート、レポート、試験成績のいずれかが劣っていて、作品読解や知識の獲得にやや不足があるものの、講義内容の基礎的な理解が認められる。 C) 消極的な学修態度や鑑賞コメントシート、最低限のレポートと試験成績などで、作品読解や知識の獲得に不足があるが、講義内容の最低限の理解が認められる。 D) 問題のある学修態度や鑑賞コメントシート、基準に満たないレポートと試験成績などで、講義内容の理解が不十分である。
テキスト	授業時に資料を配布する。
参考書	授業時に適宜紹介する。
受講者へのメッセージ	授業内で取り上げる作品や順序は、変更することがある。

分類①	分類②	授業コード	教員所属	教員コード	教員名
L	L01	L01C02401	英米語英米文学科 (L2)	Z0000860	芦田川 祐子

科目名	児童文学2	学年	1	単位	2
サブタイトル	散文物語の多様性	研究室	3706		
教員名	芦田川 祐子	メールアドレス(その他連絡方法)	ashy@koshigaya.bunkyo.ac.jp		

授業概要	児童文学の中でも有名作品の多い英語圏の散文物語を中心に、作品の背景を紹介し、子ども像などのテーマを分析しながら、テキストの読み方を考え、散文物語に関する基本知識と自分なりの読解の指針を身につけることを目標とする。ナンセンス文学、学校物語、家庭物語、冒険小説、少女小説、孤児物語、ファンタジーなどのジャンルの特色と、テキストが相互に関連しているさまを、代表作を読み、映像版も鑑賞しながら学ぶ。
到達目標	英語圏の散文物語のジャンルや代表作について知り、自分なりの読解の指針を身につける。
授業計画	第1回: 不思議／鏡の国のアリス 第2回: トム・ブラウンの学校生活 第3回: 若草物語 第4回: 宝島 第5回: 赤毛のアン 第6回: 秘密の花園 第7回: ピーター・パン 第8回: 星の王子さま 第9回: ホビットの冒険 第10回: ナルニア国物語 第11回: トムは真夜中の庭で 第12回: ぼくと(ジョージ) 第13回: はてしない物語 第14回: 魔法使い、ハウルと火の悪魔 第15回: ハリー・ポッターと賢者の石
授業外での学修	授業での配付物を読み返すとともに、取り上げられた作品の全体を読むこと。
評価方法	学修態度や提出物 30%、期末試験 70%で評価する。
評価基準	AA: 授業に積極的な態度で参加し、課題への取り組みが特に優れていて、児童文学の散文物語への深い理解が認められる。 A: 授業に積極的な態度で参加し、課題への取り組みが優れていて、児童文学の散文物語への理解が十分に認められる。 B: 学修態度に問題がなく、課題への取り組みに大きな難点がなく、児童文学の散文物語へのある程度の理解が認められる。 C: 学修態度が消極的で、課題への取り組みにやや不足があるが、児童文学の散文物語への最低限の理解が認められる。 D: 学修態度に問題がある、または課題への取り組みに大きな難点があり、児童文学の散文物語への理解が認められない。
テキスト	資料を配付する。
参考書	授業中に指示する。
受講者へのメッセージ	「子どもの文学」だから易しいとは限りません。読むことが好きな人、多様なテキストと真剣に向き合ってみたい人の参加を歓迎します。